



TITLE:

彙報 (2018年4月-2019年3月)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

彙報 (2018年4月-2019年3月). 人文學報 2020, 115: 239-284

ISSUE DATE:

2020-06-30

URL:

<https://doi.org/10.14989/252825>

RIGHT:

## 彙 報

2018年（平成30年）4月～2019年（平成31年）3月

### 研 究 状 況 (2018年度)

#### 公募型研究班

オーラル・ヒストリー・アーカイヴスによる戦後日本映画史の再構築

班長 谷川建司

研究期間 2016年4月～2019年3月（3年度目）

研究実施状況

三年計画の最終年度である本年度は、まず年度初めの5月12日（土）・13日（日）に第一回研究会を開催した。初日は、ゲストとして、大部屋俳優として東映、大映、京都映画に所属されていた平井靖氏を招き、さまざまな時代の現場の様子について話を伺い、また、舟漕ぎの名手として様々な映画やテレビ時代劇で舟を漕ぐシーンを演じてこられた際のことなどについて映像を交えながら説明をして頂いた。二日目には前年度から開始したメンバーによる研究発表の第三回目として、西村大志（広島大学）が「映画製作と借金―岡本喜八、古澤憲吾、松林宗恵」というテーマで発表を行った。第二回研究会はそのすぐ翌週の5月19日（土）に行われ、子役として各映画会社の作品に出演した後に成人後も俳優として活躍されている目黒祐樹氏をゲストに迎え、俳優一家に生まれ育った少年時代から始まって、成人後の主な出演映画作品、テレビ作品の撮影時のエピソードなどを、映像を確認しながらお話を聞いた。第三回研究会は7月21日（土）・22日（日）の二日間、場所はゲストの都合により東京の早稲田大学

にて開催した。一日目はゲストとして元・大映、元・日活のスクリプターとして活躍してこられた堀北昌子氏を招き、大映京都撮影所と日活調布撮影所というふたつの全く異なる環境での仕事について話を伺った。二日目は、研究発表の第四回目として、久保豊（早稲田大学）が「ロゴから辿る日本映画のイメージ戦略―日活撮影所を一例に」というテーマで発表を行った。第四回研究会は9月23日（土）・24日（日）に開催され、初日には元・大映で大道具として活躍し、松竹京都撮影所で最長老の美術管理=装置係として活躍し、後進の育成に従事してこられた馬場正男氏を招いて、その長きにわたるキャリアの様々な時期の様々な作品での経験についてお話を聞いた。二日目には研究発表の第五回目として、花田文彦（京都大学）が「戦後雑誌文化のなかの『近代映画』―小杉修造氏インタビューを手がかりとして」というテーマで発表を行なった。レギュラーの研究会とは別に、10月27日（土）・28日（日）の二日間、「人文研アカデミー 2018・公開シンポジウム企画「映画『祇園祭』と京都」」を開催した。一日目は京都大学時計台国際交流ホールにて「映画『祇園祭』上映会」を行い、班長による主宰者挨拶及び上映作品の背景説明が行われた後、映画『祇園祭』（168分）の復元版35mmフィルムでの上映を行った。二日目は人文科学研究所会議室において、シンポジウム「京都史の中における『祇園祭』」を開催した。発表者とその発表タイトルを順にあげると、木村智哉（明治学院大学）「中村錦之助の『祇園祭』製作前夜―五社協定と俳優クラブ組合を中心に―」、板倉史明（神戸大学）「『祇園祭』論争に見る脚本家と監督の権限」、太田米男（大阪芸術大学）「映画『祇園祭』の復元と保存」、

京楽真帆子（滋賀県立大学）「映画『祇園祭』と歴史学研究」、そして高木博志（人文研）「近現代史のなかの映画『祇園祭』」である。ディスカッサントを木下千花（京都大学）が、班長・谷川建司（早稲田大学）が司会進行役を務めたパネルディスカッションでは、フロアーを含めて活発な議論が繰り広げられた。来場者数は一日目の上映会が130名、二日目のシンポジウムが70名であった。第五回研究会は11月15日（木）に、関西圏在住者のみでミニ研究会の形で開催された。ゲストには日本の映画草創期の横田商会を設立した横田永之助氏のご子息である横田良之助氏をゲストとして招き、自身、大映で働いてこられたご経験や父とその横田商会についてなどについての話を伺った。第六回研究会は2019年2月24日に一日のみの形で行われた。この第六回研究会は三年間の活動の最後の研究会であり、ゲストは招かずに、2019年度内に刊行予定の研究会の成果物としての論考集に乗せるべき論考の提出希望者の中で、論考の元となる研究発表の機会がこれまでなかった須川まり（追手門大学）、小川順子（中部大学）、石橋佳枝（テンブル大学）にそれぞれの研究テーマについて発表を行ってもらった。また、シンポジウムの報告書の進捗状況についての報告、三年間の研究会全体の報告書の作成プラン、論考集とインタビュー集の書籍としての刊行のプランについて班長より説明を行い、原稿提出の締め切りを含む今後のスケジュールについて確認を行った。

#### 研究班員

所内：高木博志、岩城卓二、藤原辰史、小川佐和子、菊地暁、高階絵里加、伊藤弘了

学内：木下千花（人間・環境学研究科）、花田史彦（教育学部）、ミツヨ・ワダ・マルシアーノ（大学院文学研究科）

学外：谷川建司（早稲田大学）、晏妮（日本映画大学）、板倉史朗（神戸大学大学院）、井上雅雄（立教大学）、大澤佳枝（テンブル大学）、小川順子（中部大学）、北浦寛之（セインズベリー日本芸術研究所）、木村智哉（明治学院大学）、久保豊（早稲田大学）、河野真理江（立教大学）、須川まり（追手門大学）、富田美香（国立近代美術

館フィルムセンター）、長門洋平（京都精華大学）、西村大志（広島大学大学院）、上田学（神戸学院大学大学院）、園田恵子（フリーランス映画研究者）

#### 研究実施内容

##### 2018年

- 5月12日 第1回研究会（1日目）  
平井靖氏へのインタビューと質疑応答  
発表者：平井 靖（大部屋俳優）  
司会：谷川建司（早稲田大学）
- 5月13日 第1回研究会（2日目）  
映画制作と借金 ― 岡本喜八、吉沢憲吾、松林宗恵  
発表者：西村大志（広島大学）
- 5月19日 第2回研究会  
目黒祐樹氏へのインタビューと質疑応答  
発表者：目黒祐樹（映画俳優）  
司会：谷川建司（早稲田大学）
- 7月21日 第3回研究会（1日目）  
堀北昌子氏へのインタビューと質疑応答  
発表者：堀北昌子（スクリプター）  
（元・大映、元・日活）  
司会：谷川建司（早稲田大学）
- 7月22日 第3回研究会（2日目）  
ロゴから辿る日本映画のイメージ戦略 ― 日活撮影所を一例に  
発表者：久保 豊（早稲田大学）
- 9月22日 第4回研究会（1日目）  
馬場正男氏へのインタビューと質疑応答  
発表者：馬場正男  
大道具・装置係（元・大映）  
司会：谷川建司（早稲田大学）
- 9月23日 第4回研究会（2日目）  
戦後雑誌文化のなかの『近代映画』― 小杉修造氏インタビューを手掛かりとして  
発表者：花田史彦  
（京都大学大学院教育学研究科）
- 10月27日 人文研アカデミー 2018「映画『祇園祭』と京都」 第1日目 「映画『祇園祭』上映会」  
映画『祇園祭』と京都

- 発表者：谷川建司（早稲田大学）
- 10月28日 人文研アカデミー 2018「映画『祇園祭』と京都」第2日目 公開シンポジウム「京都史の中における『祇園祭』」
- 中村錦之介の『祇園祭』製作前夜一五社協定と俳優クラブ組合を中心に
- 一 発表者：木村智哉（明治学院大学）
- 『祇園祭』論争に見る脚本家と監督の権限 発表者：板倉史明（神戸大学大学院）
- 映画『祇園祭』の復元と保存
- 発表者：太田米男（大阪芸術大学）
- 映画『祇園祭』と歴史学研究
- 発表者：京樂真帆子（滋賀県立大学）
- 近現代史のなかの映画『祇園祭』
- 発表者：高木博志
- 11月15日 第5回研究会
- 横田良之助へのインタビューと質疑応答 発表者：横田良之助
- 元・大映（横田商会を設立した横田永之助氏の子息）
- 司会：上田 学（神戸学院大学）
- 2019 年
- 2月24日 第6回研究会
- 戦後の京都映画史における吉村公三郎の位置づけ
- 発表者：須川まり（追手門大学）
- 日本映画における時代劇映画の位置づけ 発表者：小川順子（中部大学）
- Escapade in Japan 日本ロケをめぐる
- 発表者：石橋佳枝（テンプレ大学）

# フーコー研究 ― 人文科学の再批判と新展開

班長 小泉義之

研究期間 2017 年 4 月－2020 年 3 月（2 年度目）

研究実施状況

本共同研究の中核は、班員がそれぞれの研究報告を行う研究会（例会）である。2 年目となる本年度

も、昨年度同様、全 5 回の例会（各回 2 日連続、したがって 6 日、ただし、第 3 回例会 2 日目は台風接近により第 4 会例会前日に延期）を開催、そのうちの 1 日（第三回例会 1 日目）をゲストを招いての公開研究会として企画し、2017 年に刊行されたフーコー『性の歴史』第 4 巻『肉の告白』の検討を行った。また、本年度より、研究班の内部に「フーコー講義」及び「科学史（的観点からのアプローチ）」をテーマとする二つのサブ・グループを設け、本研究班の内部を構造化した。本年度第 4 回および第 5 回例会は、これらのサブ・グループのイニシアティブによりそれぞれ開催される。なお、本年度 5 月から 6 月にかけて、「人文研アカデミー」にて、連続セミナー「〈68 年 5 月〉と私たち」を主催し、本研究班のメンバー 10 人が登壇、毎回好評を得た。同セミナーの内容は、本年度末に『〈68 年 5 月〉と私たち ―「現代思想と政治」の系譜学』（読書人）として出版された。

## 研究班員

所内：立木康介、佐藤淳二、王寺賢太、森本淳生、瀬戸口明久、藤井俊之、春木奈美子、沈恬恬

学内：田中祐理子（京都大学白眉センター）、武田宙也（京都大学大学院人間・環境学研究科）

学外：小泉義之（立命館大学）、市田良彦（神戸大学）、長原豊（法政大学）、上田和彦（関西学院大学）、布施哲（名古屋大学）、佐藤嘉幸（筑波大学）、廣瀬純（龍谷大学）、隠岐さや香（名古屋大学）、前川真行（大阪府立大学）、北垣徹（西南学院大学）、中井亜佐子（一橋大学）、千葉雅也（立命館大学）、松本潤一郎（就実大学）、西迫大祐（明治大学）、相澤伸代（東京経済大学）、藤田公二郎（西南学院大学）、櫻田和也（大阪市立大学）、箱田徹（天理大学）、上尾真道（滋賀大学）、堀尾耕一（一橋大学）、TAJAN, Nicolas（国立精神神経医療研究センター）

研究実施内容

2018 年

- 5 月12日 第1回例会（1日目）  
〈私たち〉の構成 — 後期フーコー研究の知見から再読した『知の考古学』における主体  
発表者：松本潤一郎（就実大学）  
フーコー研究の最近の動向と今後の展望 発表者：箱田 哲（天理大学）
- 5 月13日 第1回例会（2日目）  
『臨床医学の誕生』を読む  
発表者：田中祐理子  
真理と真理体制 — フーコーの「スピノザ」 発表者：市田良彦（神戸大学）
- 7 月14日 第2回例会（1日目）  
言語、鏡、セイレレン フーコーの初期文学論 発表者：藤井俊之  
フーコーと〈ルソー〉—『ルソー、ジャン=ジャックを裁く：対話』を巡りつつ 発表者：佐藤淳二
- 7 月15日 第2回例会（2日目）  
パレーシア論を批判的に読む  
発表者：堀尾耕一（一橋大学・非常勤）  
父さん、歴史は何の役に立つのか説明して—マルク・ブロックに言寄せて  
発表者：長原 豊（法政大学）
- 9 月29日 第3回例会（1日目）：公開研究会  
「Histoire de la sexualité 4 Les aveux de la chair」を読む  
『肉の告白』—私の読みどころ  
発表者：立木康介  
意志と主体—『肉の告白』におけるフーコーのアウグスティヌス読解—  
発表者：相澤伸依（東京経済大学）  
「情欲の主体の分析論」について  
発表者：慎改康之（明治学院大学）  
自己に対する関係の変容？  
発表者：近藤智彦（北海道大学）

2019 年

- 1 月25日 第3回例会（2日目）（台風のため9

月から1月に順延）

生権力/生政治とは何か—レイシズム、自由主義、新自由主義

発表者：佐藤嘉幸（筑波大学）

「以上は、ネオリベラル派が言うはずであろうことに最も近く寄り添った場合の私の物事の見方です」—規律権力論からリベラル統治性論への移行について 発表者：廣瀬 純（龍谷大学）

- 1 月26日 第4回例会（1日目）

La Société punitive を読む—le pénal と le punitif をつなぐ la moral に注目して—

発表者：相澤伸依（東京経済大学）

生的=主権的複合体—フーコーの人文科学批判の射程—

発表者：藤田公二郎（西南学院大学）  
英米圏哲学者たちによるフーコー解釈—〈批判理論〉から「戦闘性」まで—

発表者：布施 哲（名古屋大学）

- 1 月27日 第4回例会（2日目）

フーコーにおける「狂気」の言語の問題 発表者：武田宙也

（京都大学大学院人間・

環境学研究科）

『主体の解釈学』における法の問題について 発表者：西迫大祐（明治大学）  
啓蒙、革命、パレーシア—80年代フーコーの思想における「現在」

発表者：坂本尚志（京都薬科大学）  
フーコーとポピュリズム

発表者：箱田 徹（天理大学）

- 3 月16日 第5回例会（1日目）

強迫神経症の主体の終焉、あるいは倒錯的な抵抗の線を引くことの「不可能性」について

発表者：久保田泰考（滋賀大学）

狂気、主体、真理—フーコーとラカンにおけるデカルトのコギトの問題をめぐって 発表者：柵瀬宏平

（東京大学（博士課程））

3月17日 第5回例会(2日目)

『カントの人間学』を読む

発表者：田中祐理子

(京都大学文学部／白眉センター)

エビステモロジーサークルのフォー

ー析出する考古学、蠢動する系譜学

発表者：坂本尚志(京都薬科大学)

# 日本鍼灸医術の形成 — 近世医学史の再構築

班長 長野 仁

研究期間 2018年4月－2021年3月(1年度目)

研究実施状況

近世から現代へと受け継がれてきた鍼灸医術の源流を探り、伝授形式や流儀を具体的に検討することによって、鍼灸学派の系譜を明確にし、技術的伝統の形成に構造的把握を試みた。本年度は、とりわけ現存最古の鍼道伝授書である『針聞書』を考究対象に取り上げ、著者である茨木元行が唱えた今新流の伝播を追跡し、近世鍼術の流派がどのように分岐していったのかを系譜づけながら、その著作に図解されたハラノムシの病理観や治療法、診断術をめぐる諸問題を討議した。研究班の立ち上げに際し、茨木元行『針聞書』編纂450周年を記念して覆刻版を刊行するとともに、5月12日に地元の茨木市鍼灸師会と共催で茨木神社にて茨木元行顕彰会の発足式を挙行し、翌日に茨木市立生涯学習センターにて声優の神谷明氏、古箏演奏家の伍芳氏、古典落語家の桂福丸を特別ゲストに招いた覆刻版刊行記念公開イベントを共同研究会と連動する形で開催した。また、班長が実行委員長を務めた日本伝統鍼灸学会大会(11月24-25日開催)においても、『針聞書』編纂450周年をメインテーマとする併催イベントを実施し、『針聞書』を基軸にした鍼灸医術共同研究プロジェクトを大々的にアピールした。なお、9月には地震と台風で被害に遭った茨木神社の復興支援を目的として、班長、副班長と大形徹氏を講師とするチャリティ講演会を行ったことも附記しておく。

研究班員

所内：武田時昌、古勝隆一、高井たかね

学内：赤澤久弥(附属図書館)、成高雅(人間・環境学研究科)、中神由香子(医学研究

科)、劉青(人間・環境学研究科)

学外：荒川緑(東洋鍼灸専門学校)、猪飼祥夫(猪飼鍼灸・院長)、ウォルフガング・ミヒエル(九州大学)、浦山きか(森ノ宮医療大学)、浦山久嗣(赤門鍼灸柔整専門学校)、大浦宏勝(はりきゅう処 路傍庵)、郭秀梅(順天堂大学)、加畑聡子(二松学舎大学大学院)、紀野江理(森ノ宮医療学園専門学校)、小曾戸洋([公財]武田科学振興財団杏雨書屋)、佐々木啓(鍼灸鴻仁)、島山奈緒子(明治国際医療大学)、鈴木達彦(平成帝京大学)、高津孝(鹿児島大学)、多田伊織(鈴鹿医療科学大学)、谷田保啓(たにだ鍼灸院)、中神源一(中神内科クリニック)、長谷川佳与子(奈良女子大学大学院)、東昇(京都府立大学)、深水美和(専門学校 大阪医専)、松木宣嘉(四国医療専門学校)、真柳誠(茨城大学)、三鬼丈知(大谷大学)、物部陽明(森ノ宮医療学園)、横山浩之(森ノ宮医療大学)、吉永進一(舞鶴工業高等専門学校)、梁永宣(北京中医薬大学)、和辻直(明治国際医療大学)

研究実施内容

2018年

5月12日 「日本鍼灸医術の形成」班／国文学研究資料館医学書班(合同研究会)

茨木の歴史と文化～わがまち茨木へようこそ～

発表者：岡市正規(茨木神社宮司)

茨木元行の今新流～小国郷への伝播について～

発表者：長野 仁

(森ノ宮医療大学大学院教授)

南小国志賀瀬の橋本龍雲家旧宅の現状報告

発表者：原山光成

(小国郷史談会会長)

『腹の虫の研究』概説

発表者：辻本裕成

(南山大学人文学部教授)

5月13日 「ザ・ハラノムシ・ワールド」(茨木元行『針聞書』編纂450周年完全覆刻版



- 刊行記念イベント)  
内弟子 55 年!! わが師 井上恵理  
発表者: 南谷旺伯  
(元岐阜県鍼灸師会会長/  
旺針療所院長)  
中国古筝ミニコンサート「東洋医学の風景」  
発表者: ウー・ファン  
(中国古筝演奏家)  
教師生活 25 年! ハラとハラノムシとワタシ  
発表者: 長野 仁  
(森ノ宮医療大学大学院教授/  
鍼灸鴻仁院長)  
古典落語「疝気の虫」  
発表者: 桂 福丸  
トークショー「オレの名は。声優半世紀の職人魂!」  
発表者: 神谷 明  
10月7日 琢周系流儀書の書誌  
発表者: 長野 仁  
(森ノ宮医療大学大学院・教授)  
出雲地方の医学史と琢周  
発表者: 梶谷光弘  
(公財) いづも財団・研究員)  
『諸虫針治論図』諸本の異同一図示される「虫」の図の比較から—  
発表者: 池内早紀子  
(大阪府立大学大学院・博士課程)  
11月23日 医事説話の誕生と成長—鍼立・無分の場合—  
発表者: 福田安典  
(日本女子大学教授)  
『難経俗解』一栢注と『扁倉伝』幻雲注について  
発表者: 宮川浩也  
(日本内経医学会会長)  
2019 年  
2月3日 「経絡治療」の歴史、「脉診」の歴史  
発表者: 浦山久嗣  
(赤門鍼灸柔整専門学校)  
3月10日 東京ミーティング 2019.3「後藤・香川流古医方の学統」  
後藤良山の門人録『儒医姓名録』  
発表者: 長野 仁 (森ノ宮医療大学)  
「丸亀藩医・尾池家の系譜について」  
発表者: 中澤 淳 (東亜大学)  
讃岐藩医・宮武家の系譜について  
発表者: 宮武 浩二 (阪急田園バス)  
舞台で街頭で—60 年代は踊りをどう変革したか(日仏比較舞踊学の試み)  
班長 北原まり子  
研究期間 2018 年 12 月—2019 年 3 月 (1 年度目)  
研究実施状況  
論文集『Danser en 68, Perspectives internationales』(2018 年)の出版を受け、編集責任者の一人であるシルヴィア・ヌ・パジェス氏および寄稿者であるパトリック・ドゥヴォス氏と、1960 年代の日仏舞踊状況に関する意見交換を行った (2018 年 12 月—2019 年 1 月)。来日したパジェス氏と班員全員は、2019 年 2 月 25 日に京都大学人文科学研究所にて第一回研究会「日本とフランスの 60 年代舞踊情勢の比較」を開催し、日仏比較に基づく相違について議論した。その結論をふまえて 27 日に、公開国際シンポジウム「街頭で、劇場で、舞踊の 60 年代—アクション／リアクション」を東京大学駒場キャンパスで開き、パジェス氏、ドゥヴォス氏、北原、宮川が登壇した (登壇予定であった長谷川六氏は肺炎のため急遽欠席\*)。翌 28 日に慶應義塾大学三田キャンパスにてパジェス氏による講演会「戦後のフランスのダンス状況と 1978 年の舞踏ショック」を開催した。その際、ドゥヴォス氏、北原、宮川もコメンテーターとして登壇し、聴衆との活発な議論が展開された。\*当時の証言者の方々は高齢であり、京都までお越しいただくのは困難であったため、第二回及び第三回研究会の開催地は東京としていた。  
研究班員  
所内: 小川佐和子  
学外: 北原まり子 (早稲田大学・パリ第八大学),  
宮川麻理子 (千葉大学)  
研究実施内容  
2019 年  
2月25日 日本とフランスの 60 年代舞踊情勢の比較—シルヴィア・ヌ・パジェス氏をお招きして  
『Danser en 68: Perspectives internationales』(Isabelle Launay, S. Pagès

著, Deuxieme Epoque 社, 2019 年 1 月)について	
発表者: シルヴィア・パジェス 革命への郷愁, 前衛, 資本主義 — アンビヴァレントな 1960 年代の舞踊表現 発表者: 宮川麻理子 1950 年代半ばから 1960 年代半ばにかけての舞踊人による社会運動と前衛の台頭, そして 1968 年…?	(1740-1816) の『尚書』辨偽に関する研究発表を行い, その清代・近代以後の学術史上の意義を考察した。研究集会では, 発表者・参加者により研究発表内容に関する集中的な討議を行うとともに, 尚書学研究の方法や指針に関する幅広い議論も行った。続いて平成 31 年 2 月に九州大学の林 暁光氏を招聘し, セミナー「文史哲 — 文学と哲学から見た『文史通義』」を開催した。平成 31 年 3 月, 竹元・内山が台北に赴き, 研究集会で陳鴻森氏の発表した内容を『東方学報』に投稿するための打ち合わせを行い, 合わせて中央研究院中国文哲研究所ほかで研究者にインタビューを行って, 台湾での近年の『尚書』研究動向を調査した。
2 月 27 日 街頭で, 劇場で, 舞踊の 60 年代 — アクション／リアクション (日本とフランスの比較を通じて) 五月革命に踊る	研究班員 所内: 古勝隆一, 福谷彬 学外: 陳鴻森 (蘇州大学, 中央研究院), 内山直樹 (千葉大学)
発表者: シルヴィア・パジェス 《アルジェリアに行きたい》(1960 年) — 戦後のダンスにおける〈黒人〉の表象を巡って 発表者: 宮川麻理子 舞台以外で起こったのか? Partout sauf sur scène? — 日本のダンス 60 年代〈革命〉の場所	研究実施内容 2018 年 12 月 14 日 尚書解釈の過去と現在 「高宗諒陰」考 発表者: 陳 鴻森 (台湾・中央研究院) 崔述的《尚書》論 発表者: 竹元規人 (福岡教育大学)
2 月 28 日 シルヴィア・パジェス氏来日講演会 戦後のフランスのダンス状況と 1978 年の舞踏シヨック 発表者: シルヴィア・パジェス コメンテーター: パトリック・ドゥヴォス コメンテーター: 北原まり子 コメンテーター: 宮川麻理子	2019 年 2 月 19 日 文史哲 — 文学と哲学から見た『文史通義』 史的な文 — 古典文学研究の立場から見る章学誠 発表者: 林 暁光 (九州大学)
『尚書』解釈の過去と現在 班長 竹元規人 研究期間 2018 年 12 月—2019 年 3 月 (1 年度目) 研究実施状況 平成 30 年 12 月に陳鴻森氏を招聘し, 「『尚書』解釈の過去と現在」というタイトルの国際学会議を開催した。陳氏は「高宗諒陰」に関する長年の研究成果を発表 (講演) した。ほかに竹元が崔述	1920-30 ドイツの精神分析の発展と社会理論への影響についての研究 班長 上尾真道 研究期間 2018 年 12 月—2019 年 3 月 (1 年度目) 研究実施状況 本共同研究では, 全 2 回の例会を開催して, 戦間期ドイツ語圏の精神分析理論の発展と当時の社会理論との関連について討議を行った。第一回は 2 月 10 日に実施し, 上尾による導入的報告の後, 村田智子によるウィルヘルム・ライヒの理論・実践の全体像についての報告, 丸山明によるオットー・ラン



クおよびフランツ・アレキサンダーの戦間期の展開についての報告を行って、全体で討論を行った。第二回は3月6日に実施し、藤井あゆみによるベルリン精神分析インスティテュートの制度と実践についての報告、舟木徹男によるエーリッヒ・フロムの思想とフランクフルト学派に関する報告ののち、全体で討論を行った。

#### 研究実施内容

##### 2019 年

- 2月10日 導入に代えて：戦間期ドイツ語圏の状況と精神分析 発表者：上尾真道（龍谷大学・非常勤）
- ライヒの思想・実践の変遷、また諸概念の整理 発表者：村田智子（名古屋芸術大学・非常勤）
- 改革か？ 反逆か？ — オットー・ランクとフランツ・アレキサンダーの治療論 発表者：丸山 明（近畿大学・非常勤）

##### 2019 年

- 3月6日 戦間期のベルリン精神分析インスティテュート 発表者：藤井あゆみ（同志社大学・非常勤）
- エーリッヒ・フロムにおけるフロイトとマルクスの統合 発表者：舟木徹男（龍谷大学・非常勤）

#### 人文学研究部

#### 「ヴァードゥーラ・シュラウターストラ」研究

班長 井狩彌介、藤井正人

研究期間 2015 年 4 月—2019 年 3 月（4 年度目）

#### 研究実施状況

ヴァードゥーラ・シュラウターストラの第 8 章（アグニチャヤナ祭）を研究対象にして、井狩（班長）が校訂テキストと訳注を作成し、研究会で報告するとともに、参加者全員によって検討を行った。昨年度と同様に、テキストの会読を中心に、補説的な研究を混ぜながら共同研究を進めた。今年度、これまでに検討したテキストの主題は、アグニ祭壇敷地への蓮葉、金板、黄金の人像の設置、祭壇第 1 層

と第 2 層の煉瓦の配置などである。

所内：藤井正人、井狩彌介

学内：横地優子（文学研究科）、天野恭子（白眉センター）、八木綾子（文学研究科・非常勤講師）、高橋健二（文学研究科・博士後期課程）、趙世弘（文学研究科・博士後期課程）

学外：伊澤敦子（国際仏教学大学院大学・図書館職員）、永ノ尾信悟（東京大学・名誉教授）、大島智靖（東京大学・研究員）、尾園絢一（東北大学・専門研究員）、梶原三恵子（東京大学）、川村悠人（日本学術振興会海外特別研究員）、小林正人（東京大学）、柴崎麻穂（中村元東方研究所・専任研究員）、手嶋英貴（京都文教大学）、堂山英次郎（大阪大学）、名和隆乾（大阪大学）、西村直子（東北大学・非常勤講師）、山田智輝（大阪大学・研究員）

#### 研究実施内容

##### 2018 年

- 3月9日 Vādhūla Śrautasūtra 8.21.1–8.22.1 発表者：井狩彌介
- 4月27日 Vādhūla Śrautasūtra 8.22.2–16 発表者：井狩彌介
- 5月25日 Vādhūla Śrautasūtra 8.22.17–33 発表者：井狩彌介
- 6月22日 Vādhūla Śrautasūtra 8.22.34–23.12 発表者：井狩彌介
- 7月20日 Vādhūla Śrautasūtra 8.23.13–24.7 発表者：井狩彌介
- 9月20日 Vādhūla Śrautasūtra 8.24.8–25.16 発表者：井狩彌介
- 11月2日 Vādhūla Śrautasūtra 8.26.1–28 発表者：井狩彌介
- 11月30日 Vādhūla Śrautasūtra 8.27.1–28.16 発表者：井狩彌介
- 12月21日 Vādhūla Śrautasūtra 8.29.1–30.35 発表者：井狩彌介

##### 2019 年

- 1月11日 Vādhūla Śrautasūtra 8.30.1–35 発表者：井狩彌介

ブラフマニズムとヒンドゥイズム — 南アジアの社会と宗教の連続性と非連続性 班長 藤井正人  
研究期間 2016年4月—2019年3月(3年度目)  
研究実施状況

本研究では3年の研究期間を半年ごとの全6クールに分け、各クールごとにテーマを設定し、複数回の定例研究会とクール最後のシンポジウムを開催している。今年度前半の第5クールでは、定例研究会で古代および中世インドの哲学と学問について、ウパニシャッド、パーニニ文法学、伝統学問分野、密教ホーマ儀礼、後期アドヴァイタ学派、ヤースカ語源学についての報告が行われ、10月に「古典インドの哲学と学問」をテーマに第5回シンポジウムを人文科学研究所で開催した。後半の第6クールでは、定例研究会で古代および中世インドにおける王権と宗教を取り上げ、これまでに王権儀礼、王座とブラフマン神、ダルマ文献、ヴェーダの願望祭、密教灌頂、祭官選任儀礼、ジャイナ教のクシャトリヤ観、仏教と王権に関する報告を行うとともに、3月に「古代・中世インドにおける王権と儀礼」をテーマに第6回シンポジウムを東京大学で開催した。

#### 研究班員

所内：藤井正人、井狩彌介、田中雅一、石井美保

学内：赤松明彦(白眉センター)、横地優子(文学研究科)、天野恭子(白眉センター)、菊谷竜太(白眉センター)、八木綾子(文学研究科・非常勤講師)、山口周子(文学研究科・非常勤講師)、高橋健二(文学研究科・博士後期課程)、趙世弘(文学研究科・博士後期課程)

学外：伊澤敦子(国際仏教学大学院大学・図書館職員)、井田克征(金沢大学・客員研究員)、永ノ尾信悟(東京大学・名誉教授)、大島智靖(東京大学・研究員)、置田清和(上智大学)、小倉智史(東京外国語大学)、尾園絢一(東北大学・専門研究員)、梶原三恵子(東京大学)、河崎豊(東京大学)、川村悠人(日本学術振興会海外特別研究員)、小林史明(東京大学・博士課程)、小林正人(東京大学)、佐々木雄太(東北大学・博士課程)、佐藤直美(宗教情報セン

ター・研究員)、柴崎麻穂(中村元東方研究所・専任研究員)、高橋孝信(東京大学・名誉教授)、竹崎隆太郎(東京大学・博士課程)、田辺明生(東京大学)、手嶋英貴(京都文教大学)、堂山英次郎(大阪大学)、中村史(小樽商科大学)、名和隆乾(大阪大学)、西村直子(東北大学・非常勤講師)、沼田一郎(東洋大学)、眞鍋智裕(日本学術振興会特別研究員)、山田智輝(大阪大学・招へい研究員)、吉水清孝(東洋文庫・研究員)

#### 研究実施内容

##### 2018年

- 4月27日 「祭式歌詠と思想：最初のウパニシャッドはどのように生まれたのか」  
発表者：藤井正人
- 5月25日 「パーニニ文法に見られる祭式的要素：高低アクセント(svara)の問題を中心に」  
発表者：尾園絢一  
(東北大学・非常勤)
- 6月22日 「14または18のvidyasthana(学問分野)について」  
発表者：吉水清孝  
(東洋文庫・非常勤)
- 7月20日 「インド密教におけるホーマ儀礼：アバヤーカラグプタ著『光の花房』を中心に」  
発表者：菊谷竜太(白眉センター)
- 9月14日 「ブリハッド・カタールに登場する王と神—カシミール系ブリハッド・カタールを中心に」  
発表者：眞鍋智裕  
(日本学術振興会特別研究員)  
「神の名の意味を知ること：神名アグニ(agni)の分析に見るヤースカの語源学と神学」  
発表者：川村悠人  
(日本学術振興会海外特別研究員)  
堂山英次郎(大阪大学)
- 10月7日 第5回シンポジウム「古典インドの哲学と学問」  
「最初のウパニシャッドはどのように生まれたのか」  
発表者：藤井正人  
「ヴェーダ祭式とパーニニ文法学」

- 発表者：尾園絢一  
(東北大学・非常勤)  
「神の名の意味を知ること：神名アグニ (agni) の分析に見るヤースカの語源学と神学」 発表者：川村悠人  
(日本学術振興会海外特別研究員)  
堂山英次郎 (大阪大学)  
「インド密教におけるホーマ儀礼について」  
発表者：菊谷竜太 (白眉センター)  
10月8日 第5回シンポジウム「古典インドの哲学と学問」  
「後期 アドヴァイタ学派における bhakti 論」 発表者：眞鍋智裕  
(日本学術振興会特別研究員)  
「14 または 18 の学問 (vidyasthana) について」 発表者：吉水清孝  
(東洋文庫・非常勤)  
11月2日 「贖罪としてのアシュヴァメダ：ブラーフマナ、法典、叙事詩を通じた観念の発達」  
発表者：手嶋英貴 (京都文教大学)  
12月21日 「王座とブラフマン神：Kausitaki-Upanisad 第1章をめぐって」  
発表者：藤井正人  
2019 年  
1月11日 「ダルマ文献における裁判・司法セクションの位置付け」  
発表者：沼田一郎 (東洋大学)  
2月8日 「願望祭とヴェーダ期における社会秩序の維持」  
発表者：天野恭子 (白眉センター)  
「インド密教における灌頂次第とチベットへの伝達」  
発表者：菊谷竜太 (白眉センター)  
3月8日 「Pravara において祭主が唱える mantra とその brahmana」  
発表者：西村直子  
(東北大学・非常勤)  
「ジャイナ教におけるクシャトリヤ観の一事例」  
発表者：河崎 豊 (東京大学)  
「仏教と王権 — ブッダの始祖伝説からモンゴル王統史まで —」  
発表者：山口周子  
(文学研究科・非常勤)  
3月23日 第6回シンポジウム「古代・中世インドの王権と宗教」  
「王座とブラフマン神」  
発表者：藤井正人  
「願望祭とヴェーダ期における社会秩序の維持」  
発表者：天野恭子 (白眉センター)  
「血統、家系はなぜ重視されたのか：祭官選任儀礼の整備を中心として」  
発表者：西村直子  
(東北大学・非常勤)  
「贖罪としてのアシュヴァメダ」  
発表者：手嶋英貴 (京都文教大学)  
3月24日 第6回シンポジウム「古代・中世インドの王権と宗教」  
「ジャイナ教におけるクシャトリヤ観の一事例」  
発表者：河崎 豊 (東京大学)  
「仏教と王権 — ブッダの始祖伝説からモンゴル王統史まで —」  
発表者：山口周子  
(文学研究科・非常勤)  
「インド密教における灌頂次第とチベットへの伝達」  
発表者：菊谷竜太 (白眉センター)  
「ダルマ文献における司法論題の配置とその変遷」  
発表者：沼田一郎 (東洋大学)  
アジアにおける人種主義の連鎖と転換  
班長 竹沢泰子  
研究期間 2016 年 4 月—2019 年 3 月 (3 年度目)  
研究実施状況  
本年度は大きく分けて以下の 5 つの活動を中心に実施した。1) 2016 年に刊行した「人種神話を解体する」計 3 巻の最後の成果公開イベントとして、第

1 巻「可視性と不可視性のはざまで」の執筆者による連続セミナーを計 3 回人文研アカデミーとして行った。2) 国際共同研究を含めた「新・可視性と不可視性のはざまで」の連続セミナーを計 2 回人文研アカデミーとして行った。その際、外国人招聘研究者からも協力をえた。3) 国際シンポジウム「環太平洋の日系ディアスポラ・アート～マイナー・トランスナショナリズムにみる遭遇と想像」を人文研アカデミーとして行った。この成果は、内容を差異化して海外の二つの雑誌において 2019 年および 2021 年に特集号を組むことが決定している。この他、米国日系人に関して、ゲストを招き 2 回研究会を行った。4) 人種・民族のカテゴリーを用いた遺伝子検査ビジネスについて、海外から 2 度ゲストを招き、文理融合での研究会を 6 回行った。5) 環太平洋地域における人種主義をめぐる論文集刊行に向けて、合宿を行った。本年度で共同研究 (B) は終了するが、この 3 年間に於いて積み重ねてきた研究や議論を、次年度から成果として発表していく予定である。

#### 研究班員

所内：石井美保、瀬戸口明久、徳永悠

学内：川上浩司 (大学院医学研究科)、佐野亘 (大学院地球環境学堂)、Caroline Hau (東南アジア研究所)

学外：田辺明生 (東京大学)、太田博樹 (北里大学)、鬼丸武士 (九州大学)、坂野徹 (日本大学)、篠田謙一 (国立科学博物館)、関口寛 (四国大学)、瀬口典子 (九州大学)、徳永勝士 (東京大学)、成田龍一 (日本女子大学)、舟橋健太 (龍谷大学)、吉村智博 (大阪人権博物館)、John Russell (岐阜大学)、渡辺紀子 (立命館大学)、崔徳孝 (ケンブリッジ大学)、Arnaud Nanta (フランス国立科学研究センター (CNRS))、Mark Winchester (神田外国語大学)

#### 研究実施内容

2018 年

4 月 12 日 第 1 回研究会 文理融合班研究会  
13 年間、3 度にわたる「遺伝子検査ビ

ジネス」に関する研究班を主宰して

発表者：高田史男 (北里大学)  
NPO 法人個人遺伝情報取扱協議会の  
設立とその後 発表者：堤 正好  
(株式会社エスアールエル)

5 月 19 日 第 2 回研究会 人文研アカデミー  
2018「人種神話を解体するー可視性と不可視性のはざまで」出版記念 連続セミナー @ 人文研 第 1 回「被差別部落の表象」  
差異と差別の (不) 可視化をめぐる  
発表者：竹沢泰子  
見えない差異と映像表現の問題

発表者：斉藤綾子 (明治学院大学)  
6 月 2 日 第 3 回研究会 人文研アカデミー  
2018「人種神話を解体するー可視性と不可視性のはざまで」出版記念 連続セミナー @ 人文研 第 2 回「創られた人種」の可視化」  
アイヌの〈血〉が意味するもの

発表者：関口由彦 (成城大学)  
「国民の物語」再考ー 部落問題認識における本質論を超えてー

発表者：吉村智博  
(国際日本文化研究センター)  
6 月 16 日 第 4 回研究会 人文研アカデミー  
2018「人種神話を解体するー可視性と不可視性のはざまで」出版記念 連続セミナー @ 人文研 第 3 回「新人類主義の現在 (いま)・座談会」  
「ジブシー」の可視化と新人種主義

発表者：岩谷彩子  
座談会 発表者：岩谷彩子  
発表者：関口由彦 (成城大学)  
発表者：斉藤綾子 (明治学院大学)  
発表者：田辺明生 (東京大学)

発表者：竹沢泰子  
7 月 7 日 第 5 回研究会 歴史・文化班 合宿  
発表者：徳永 悠  
発表者：平野克也  
(カリフォルニア大学

- ロサンゼルス校)  
発表者：竹沢泰子  
発表者：関口寛 (四国大学)
- 7月8日 第6回研究会 歴史・文化班 合宿  
発表者：内野クリスタル  
発表者：吉村智博  
(国際日本文化研究センター)  
発表者：鬼丸武士 (九州大学)  
発表者：田辺明生 (東京大学)
- 7月19日 第7回研究会 文理融合班研究会  
13年間、3度にわたる「遺伝子検査ビジネス」に関する研究班を主宰して  
発表者：高田史男 (北里大学)  
萌芽的科学技術を巡る語られ方と社会的含意の探索の試み  
発表者：標葉隆馬 (成城大学)
- 9月29日 第8回研究会 人文研アカデミー  
2018・国際シンポジウム『新・可視性と不可視性のはざま part 1』  
Racialization, the Carceral State & the Articulation of Multiple Alterities  
発表者：Faye V. Harrison  
(イリノイ大学)  
“Imitation Game”: Rachael Dolezal, Martina Big, “Transracial,” “Transgender,” and the Selective Reification of Authenticity in the Discourse of “Outrageous” Others  
発表者：John G. Russell (岐阜大学)  
The African Diaspora in Europe: New Visibilities and Invisibilities  
発表者：Stephen Small  
(カリフォルニア州立大学  
パークレー校)  
コメンテーター：徳永 悠  
司会：竹沢泰子
- 10月12日 第9回研究会 人文研アカデミー  
2018・シンポジウム『新・可視性と不可視性のはざま part 2』テーマ：アジアとヨーロッパの被差別民  
河原者、ユダヤ人、ジプシー—中世
- の「特権」言説— 発表者：竹沢泰子  
部族民と不可触民—インドにおける差別の諸形態—  
発表者：田辺明生 (東京大学)
- 10月31日 第10回研究会 公開講演  
NHK ドキュメンタリー制作者が見た「日系アメリカ人 栄光と苦難の150年」  
発表者：小山靖史  
(NHK エンタープライズ)
- 11月10日 第11回研究会 文理融合班研究会  
Consumer Genetics  
発表者：Alexandro Marcon  
(トロント大学)  
発表者：永井健太郎 (早稲田大学)
- 11月12日 第12回研究会 文理融合班研究会  
メディア分析の方法論をめぐって  
発表者：Alexandro Marcon  
(トロント大学)  
発表者：永井健太郎 (早稲田大学)  
発表者：田中幹人 (早稲田大学)  
発表者：標葉隆馬 (成城大学)
- 11月18日 第13回研究会 歴史・文化班研究会  
「人種」から宗教の差異へ：イギリスの多文化主義と「ムスリム」の可視化  
発表者：渡辺紀子  
(立命館大学・非常勤講師)  
Racialization (人種化) する、ということ、そして研究者としての責任  
発表者：玉野井麻利子  
(カリフォルニア大学  
ロサンゼルス校)
- 12月8日 第14回研究会 国際シンポジウム  
「環太平洋の日系ディアスポラ・アート〜マイナー・トランスナショナルリズムにみる遭遇と想像」  
Flows and Intersections in the Transnational, the Postcolonial, and the Multicultural for the artist Fung Sok Ro  
発表者：Yong Soon Min  
(カリフォルニア大学  
アーバイン校)

The Principled Journey of Artist and  
Activist Mitsu Yashima (1908-1988)

発表者: Valerie Matsumoto  
(カリフォルニア大学)  
ロサンゼルス校)

「日本」画家, 谷口富美枝 (1910-  
2001): 彼女にとって「越境」とは何  
か? 発表者: 北原恵 (大阪大学)

Contact Zones and Liminal Spaces in  
Recent Works by Yamashiro Chikako  
and Soni Kum

発表者: Rebecca Jennison  
(京都精華大学)

Ancestral Cartography: Transpacific  
Interchanges and Okinawan Indi-  
geneity 発表者: Laura Kina  
(ディポール大学)

Transnational perspectives of Nippo-  
Brazilian Artists: Kenzi Shiokava and  
Sachiko Koshikoku

発表者: Michiko Okano  
(サンパウロ国立大学)

戦後とポスト 9/11~井上葉子の作品  
にみるメジャー/マイナー・トラン  
スナショナルリズム 発表者: 竹沢泰子  
コメンテーター: 片岡真実

(森美術館)

コメンテーター: Lon Kurashige  
(南カリフォルニア大学)

コメンテーター: 小勝禮子  
(京都造形芸術大学・  
非常勤講師)

コメンテーター: Gayle K. Sato  
(明治大学)

コメンテーター: 中嶋 泉  
(首都大学東京)

2019 年

1 月 5 日 第 15 回研究会 文理融合班研究会  
合宿 発表者: Tim Caulfield

(トロント大学)

発表者: 永井健太郎 (早稲田大学)

発表者: 田中幹人 (早稲田大学)

発表者: 標葉隆馬 (成城大学)

発表者: 徳永勝士 (東京大学)

発表者: 田辺明生 (東京大学)

発表者: 竹沢泰子

発表者: 太田博樹 (北里大学)

発表者: 武藤香織 (東京大学)

2019 年

1 月 6 日 第 16 回研究会 文理融合班研究会  
合宿 発表者: Tim Caulfield

(トロント大学)

発表者: 永井健太郎 (早稲田大学)

発表者: 田中幹人 (早稲田大学)

発表者: 標葉隆馬 (成城大学)

発表者: 徳永勝士 (東京大学)

発表者: 田辺明生 (東京大学)

発表者: 竹沢泰子

発表者: 太田博樹 (北里大学)

発表者: 武藤香織 (東京大学)

3 月 25 日 第 17 回研究会 公開セミナー

The Blossoming of Nikkei Australian  
Literature 発表者: Lyle De Souza  
John Okada and The Great Nisei Novel

発表者: Frank Abe

(ラジオ番組プロデューサー)

生と創造の探究 ― 環世界の人文学 班長 岩城卓二

研究期間 2017 年 4 月-2020 年 3 月 (2 年度目)

研究実施状況

2017 年 3 月に終了した「環世界の人文学 ― 生き  
もの, なりわい, わざ」を引き継ぐ本研究班の 2 年  
目である本年度は, 引き続き, 各班員による個別課  
題についての研究報告を中心に例会を開催するとと  
もに, ゲスト・スピーカーを招いた研究会を開催し,  
陶芸家の弥生時代の衣食住を追体験する試みや知的  
なハンディをもつ人々の農業経験に関してみなで議  
論したり, 生をめぐるさまざまな人間と動物の営み  
について, 活発な議論を行った。本年度の前半はゲ  
ストも交えて広く知識を得る企画を持ち, 後半は,  
2020 年度に刊行予定の論集に向けて, 具体的な内  
容について議論を始めた。



研究班員

所内：石井美保，藤原辰史，岩城卓二，岡田暁生，  
小関隆，王寺賢太，瀬戸口明久，立木康介，  
森本淳生，イリナ・ホルカ，池田さなえ，  
小川佐和子，藤井俊之，沈恬恬，福家崇洋，  
田中雅一，シェル・エリクソン，日高由貴，  
高木博志

学内：石川登（東南アジア研究所），伊勢武史  
（フィールド科学教育研究センター），山  
越言（アフリカ地域研究資料センター），  
アンドレア百合フロレス漆間（地域研究  
統合情報センター），篠原雅武（思修館），  
朴美貞（国際高等教育院），田中祐理子  
（白眉センター），高田翔（人間・環境学  
研究科）

学外：足立薫（京都産業大学），井黒忍（大谷大  
学），岩松正洋（関西学院大学），大浦康  
介（京都大学），小柏裕俊（甲南女子大  
学），岡安裕介（NPO 法人京都アカデメイ  
ア），唐澤太輔（龍谷大学），河田学（京  
都造形芸術大学），久保昭博（関西学院大  
学），近藤秀樹（大阪教育大学），齊藤涉  
（東京大学大学院），佐塚志乃（トロント  
大学），鈴木洋仁（事業構想大学院大学），  
茶園敏美（立命館大学），橋本道範（滋賀  
県立琵琶湖博物館），平野徹之（在ドイツ  
日本大使館），堀口典子（テネシー大学），  
松嶋健（広島大学大学院），松村圭一郎  
（岡山大学大学院），山崎明日香（日本大  
学），鈴木和歌奈（日本学術振興会），中  
尾麻衣香（長崎大学），ロー・シンリン  
（慶應義塾大学），中空萌（広島大学）

研究実施内容

2018 年

- 4 月 4 日 特別例会：核の時代を写真はどうかとら  
えてきたのかー豊崎博光と新井卓の  
理論と実践  
発表者：新井 卓（写真家）  
見えない核を撮る  
発表者：豊崎博光（写真家）  
4 月 23 日 戦後日本の地域化される都市現代性：

人間性への生態学的思考

発表者：アンドレア百合  
フロレス漆間  
（南アジア地域研究研究所）

- 5 月 7 日 なぜ、女性たちは土地を耕すように  
なったのかー「人びとの側から」の農  
業史 発表者：友松夕香（学振 PD）

- 5 月 28 日 「住まい」と「仕事」  
発表者：本原令子（陶芸家）

- 6 月 16 日 霊長類混群におけるニッチと社会性  
発表者：足立 薫（京都産業大学）

- 6 月 25 日 電気で演出される 環境コンシャスな  
音楽の系譜を辿る

- 発表者：岡田暁生（人文研）  
7 月 2 日 〈郊外〉の分解者たち：見沼たんぼと  
その周辺

- 発表者：猪瀬浩平（明治学院大学）  
7 月 23 日 イマージュ・アニマルー 哲学的動物  
論と環世界

- 発表者：森本淳生（人文研）  
10 月 1 日 グローバルな温暖化が突きつける問い  
と現代哲学・思想における「背景」へ  
の関心 発表者：篠原雅武  
（人文研・非常勤）

- 10 月 22 日 炭坑化する世界ー 空気を満たすテク  
ノロジー

- 発表者：瀬戸口明久（人文研）  
11 月 12 日 Anthropogenic Tropical Forests :  
Human-Nature Interfaces on the  
Plantation Frontier 発表者：石川 登  
（東南アジア地域研究研究所）

- 11 月 26 日 粘菌と不安ー 南方熊楠の「在り方」  
と生命感へのアプローチ

- 発表者：唐澤太輔  
（龍谷大学世界仏教  
文化研究センター博士研究員）

- 12 月 10 日 Toasting and gender in Great-Britain  
in the eighteenth century

- 発表者：Rémy Duthille  
（Université Bordeaux-  
Montaigne）

2019 年

1 月 28 日 震災後文学の動物と死、そして書き直し — 川上弘美, 中森明夫, 古川日出男 —

発表者: イリナ・ホルカ (人文研)

近代京都と文化

班長 高木博志

研究期間 2017 年 4 月—2019 年 3 月 (2 年度目)

研究実施状況

本年度は、近代京都の文化について全 7 回の研究会を行い、絵画・建築・文学など芸術分野に力点をおき、新出史料の紹介や検討を行った。特に本年度の活動としては、文献・絵画・建築・写真など多様な形態の新出資料が各報告者により提示され、その性格や研究史上の意義について綿密な討論を重ねたことが特筆される。9 月 2 日には京都市内において建築史を考えるフィールドワークをおこなった。ここでは、まず画家のアトリエ兼住宅として旧竹内栖鳳邸「霞中庵」、および旧富岡鉄斎邸の二ヶ所を巡見し、近代建築・庭園として整備が進み、公開の用にも供されている前者に対し、なお保存・活用法が検討されている段階の後者という対照的な二つの邸宅を見学したのち、京都市の担当者とともに後者の保存・活用法について議論した。また、近代に特徴的な二箇所の創建神社を見学し、その建築史上の意義について討論した。11 月 17 日には、「生と創造の探求」班と共同で、「博物館と文化財の危機 — その商品化、観光化を考える」と題したシンポジウムを開催し、史料館・文化財の保存と活用のバランスや先進的な取り組みについて紹介・検討した。全体を通して、本年度は特に資史料についてその研究上の意義と保存・公開との関係について、建設的なあり方について議論を深めたことが大きな成果である。15 篇の論文からなる高木博志編『近代天皇制と社会』(思文閣出版、2018 年、540 頁)を出版した。

研究班員

所内: 高木博志, 岩城卓二, 永田知之, イリナ・ホルカ, 福家崇洋, 高階絵里加, 池田さなえ, 小川佐和子

学内: 田中智子 (教育学研究科), 谷川穰 (文学研究科), 木下千花 (人間・環境学研究

科), 藤原学 (人間・環境学研究科)

学外: 高久嶺之介 (同志社大学), 中川理 (京都工芸繊維大学), 北野裕子 (龍谷大学), 丸山宏 (名城大学), 並木誠士 (京都工芸繊維大学), ジョン・ブリー (国際日本文化研究センター), 中野慎之 (京都市), 大矢敦子 (京都文化博物館), 清水重敦 (京都工芸繊維大学), 植田彩芳子 (京都文化博物館), 加藤政洋 (立命館大学), 市川秀之 (滋賀県立大学), 長志珠絵 (神戸大学), 玉城玲子 (向日市), 原田敬一 (佛教大学), 国賀由美子 (大谷大学), 山本真紗子 (立命館大学), 本康宏史 (金沢星稜大学), 平山昇 (九州産業大学), 日向伸介 (大阪大学), 細川光洋 (静岡県立大学), マーク・テーウエン (オスロ大学)

研究実施内容

2018 年

- 4 月 7 日 武徳殿の建設と国風イメージの波及  
発表者: 中川理 (京都工芸繊維大学)
- 6 月 16 日 「教育的都会」京都の誕生 — 高等工芸学校・高等師範学校設置問題を中心に —  
発表者: 田中智子 (京都大学)
- 7 月 7 日 近代の危機を乗り越えた山鉾巡行 — 一日出新聞と『祇園会山鉾連合会記録』に見る「お祭り騒ぎ」の意味付け  
発表者: マーク・テーウエン (オスロ大学)
- 金光教と遊郭・花街 — 都市布教と民衆  
発表者: 高木博志 (人文研)
- 9 月 2 日 建築史フィールドワーク (旧竹内栖鳳邸「霞中庵」～白峯神宮～護王神社～旧富岡鉄斎邸)
- 10 月 6 日 「白蓮事件」再考 発表者: 福家崇洋 (人文科学研究所)
- 11 月 17 日 博物館と文化財の危機 — その商品化、観光化を考える  
文化財住宅を博物館にする  
発表者: 小泉和子 (登録文化財昭和のくらし博物館)

人 文 学 報

		(ほか)	研究実施内容		
対話する史料館	発表者：岩城卓二	2018 年	4 月14日	三輪日記読書会	1917 年分
	(京都大学人文科学研究所)		4 月28日	三輪日記読書会	1918 年 1 月-3 月
博物館の可能性	発表者：久留島浩		5 月12日	三輪日記読書会	1918 年 4 月-6 月
	(国立歴史民俗博物館)		5 月26日	三輪日記読書会	1918 年 7 月 9-月
文化財と政治	発表者：原田敬一		6 月09日	三輪日記読書会	1918 年 10 月-12 月
	(佛教大学歴史学部)		6 月23日	三輪日記読書会	1919 年 1 月-3 月
12月22日	京都舎密局の写真		7 月 7 日	三輪日記読書会	1919 年 4 月-6 月
	発表者：大塚活美		9 月 8 日	三輪日記読書会	1919 年 7 月-9 月
	(京都府立京都学・歴史館 資料課)		9 月22日	三輪日記読書会	1919 年 10 月-12 月
	水木要太郎と近代美術 ― 水木の『大福帳』所見から ―		9 月29日	三輪日記読書会	1920 年 1 月-2 月
	発表者：國賀由美子 (大谷大学)		10月13日	三輪日記読書会	1920 年 3 月
2019 年			10月27日	三輪日記読書会	1920 年 4 月
3 月18日	「加賀百万石」の記憶と京都文化 ― 近代金沢における都市イメージの形成 ―		11月10日	三輪日記読書会	1920 年 5 月
	― 発表者：本康宏史 (金沢星稜大学)		11月24日	三輪日記読書会	1920 年 6 月
			12 月 8 日	三輪日記読書会	1920 年 7 月-8 月
			12月15日	三輪日記読書会	1920 年 9 月-10 月
帝国日本の「財界」形成についての研究：1895 年-1945 年			暴力・宗教・性の語りをめぐって 班長 田中雅一		
研究期間	2018 年 4 月-2021 年 3 月 (1 年度目)	班長 籠谷直人	研究期間	2018 年 4 月-2020 年 3 月 (1 年度目)	
研究実施状況			研究実施状況		
(1) まず、基本の史料となる『三輪常次郎日記』については、班員に翻刻の箇所を割当て、各土曜日をめどに集まり、読書会を開催し、内容を議論した。(2) 三好通弘氏 (祇園辻利会長) から閲覧をゆるされた史料群は、中央研究院台湾史研究所の鍾淑敏氏と分担して、三好通弘氏の在台北時代の記録を整理した。2018 年 5 月 8 日から 10 日に、鍾淑敏氏が京都大学人文科学研究所を訪問し、相互の意見交換をして、あわせて三好通弘氏からの聞き取り調査を実施した。			研究会を二回、合評会、関連ドキュメンタリー上映会、公開講演会をそれぞれ一回行った。また関連資料の整理を行った。前期はメンバーの調査などの都合により、後期に集中して研究会や資料の整理を行った。		
研究班員			研究班員		
所内：岩井茂樹、村上衛			所内：田中雅一、石井美保、藤倉康子、中屋敷千尋		
学内：都留俊太郎 (文学部)			学内：岩谷彩子 (人間・環境学研究科、地球環境堂)、島田有紗 (人間・環境学研究科 博士課程)、川本直美 (人間・環境学研究科 博士課程)		
学外：陳来幸 (兵庫県立大学)、上田貴子 (近畿大学)、泉川普、鍾淑敏 (中央研究院・台湾史研究所)			学外：河西瑛里子 (甲南女子大)、澤野美智子 (立命館大学)、村上薫 (独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所)、東聖子 (近畿大学)、赤堀雅幸 (上智大学)、小牧幸代 (高崎経済大学)、辻上奈美江 (上智大学)、内藤順子 (早稲田大学)、嶺崎寛子 (愛知教育大学)、齋藤剛 (神戸大		

学), 佐々木 祐 (神戸大学), 和崎 聖日  
(中部大学), 工藤正子 (京都女子大学),  
川西孝男 (関西学院大学)

## 研究実施内容

2018 年

10月20日 パキスタンにおける暴力と宗教, 性  
現代パキスタンにおける女性たちのパ  
ルダ (Purdah) 実践 — 都市高学歴女  
性の語りを通して

発表者: 賀川恵理香 (ASAFAS)  
“Ladies of My Family” をめぐって

発表者: 劉 高力  
(人間・環境学研究科)

10月27日 沖縄の売春を描いた「沖縄エロス外伝  
モトシンカカランヌー」をめぐって  
「沖縄エロス外伝 モトシンカカラン  
ヌー」をめぐって

発表者: 富山一郎 (同志社大学)  
「沖縄アンダーグラウンド」をめぐっ  
て 発表者: 藤井誠二

12月09日 女性に対する暴力と法規制

発表者: 後藤弘子 (千葉大学)  
監護権をめぐる法廷闘争の外 — モ  
ロッコの一事例にみる監視／内偵の応  
酬と暴力の発動

発表者: 斎藤 剛 (神戸大学)

2019 年

2月2日 2/2 合評会・ライラ・アブー＝ルゴド  
『ムスリム女性に救援は必要か』

コメント コメントーター: 村山由美  
(南山宗教文化研究所)

コメント コメントーター: 渡部 純  
(東京大学)

2月22日 不在のイマーゴ

私流文化人類学におけるヘウレーカ,  
現代思想, 不在のイマーゴ

発表者: 田中雅一 (人文科学研究所)

## 21 世紀の人文科学 — Our Age を問う

班長 岡田暁生, 小関隆, 佐藤淳二

研究期間 2018 年 4 月 — 2021 年 3 月 (1 年度目)

## 研究実施状況

2018 年度は計 15 回の研究会を催し, うち 1 回は  
国際ワークショップの形をとった。また本研究班は  
学際的な性格を強く持ち, 異分野についての参加者  
の基礎知識の共有が必須であって, 金曜開催の 7 回  
については「・・入門」と銘打ち, この情報共有を  
主眼とすることとした。本研究班の根本的な問いは  
「この世界はいつ始まっていたか」「この世界は何な  
のか」「この世界をどうすればよいのか」という,  
過去・現在・未来にかかわる問題であるが, 本年度  
は主として「いつから始まっていたか」という第一  
の問いに集中的に取り組んだ。具体的にはそれは  
1970 年代の研究であり, 音楽・精神療法・環境運  
動・アメリカ史・経済・アートなど多方面から, 現  
代世界の起点としての 70 年代の諸相を明らかにし  
た。参加者はのべ 225 名 (うち女性 28 名, 若手 61  
名, 大学院生 31 名, 私立大学 42 名, 国立他大学  
58 名) であった。なお本研究班は三人班長体制を  
とっているが, 歴史系を小関, 芸術系を岡田, 思想  
史系を佐藤が統括することで, 分野融合につとめて  
いる。

## 研究班員

所内: 立木康介, 森本淳生, 王寺賢太, 藤原辰史,  
伊藤順二, 上尾真道

学内: 吉岡洋 (こころの未来研究センター), 小  
堀慎吾 (文学研究科博士後期課程)

学外: 長谷川貴彦 (北海道大学), 中野耕太郎  
(大阪大学), 田辺明生 (東京大学), 三輪  
真弘 (情報科学芸術大学院大学), 上田和  
彦 (関西学院大学), 坂本優一郎 (関西学  
院大学), 橋本伸也 (関西学院大学)

## 研究実施内容

2018 年

4月21日 問題提起 — Humanities 機能不全の時  
代としての現代 発表者: 岡田暁生  
ウォーリック大学, 1970 年

発表者: 小関 隆  
無題 発表者: 佐藤淳二

5月18日 前衛音楽没落史入門

発表者: 岡田暁生

5月26日 アンチ・ヒューマニズムの思想と 70

	年代	発表者：佐藤淳二	Marxism	発表者：Gavin Walker (McGill University)
6月30日	1970年代以降における歴史学の転回 — 時間・空間・物語論の系譜学 —	発表者：長谷川貴彦（北海道大学）	5月17日	1960年代はサッチャリズムを呼び出したのか？ 発表者：小関 隆
7月09日	過去が紛争化させられる時代 — 「正しい歴史」をめぐる政治	発表者：橋本伸也（関西学院大学）	5月25日	60年代アメリカと「ニューディール」の退潮：去り行くリベラル政治の現代史 発表者：中野耕太郎 (大阪大学文学部)
9月28日	日本の68年：戦後民主主義の「革命的な」批判のために	発表者：王寺賢太	東方学研究部	
10月12日	ブリティッシュ・ロック史入門	発表者：小関 隆	転換期中国における社会経済制度 班長 村上 衛	
10月27日	1970以後、文化の記憶喪失 — 死者たちの臨在、生ける死体、そして死後の生	発表者：吉岡 洋 (こころの未来研究センター)	研究期間	2016年4月—2019年3月（3年度目）
10月31日	Multimemorism and Law : Memory laws in the age of multiculturalism	発表者：Nikolay Koposov	研究実施状況	本年度は3年計画の3年目にあたり、合計18回の研究会を行った。毎回の参加者数は20~25名ほどで、本学文学研究科の院生をはじめとする若手の班員からも積極的な参加と発言を得た。本研究班は時代的・テーマ的に広い範囲を扱うため、中国近現代史研究者のみならず、明清史研究者や現代中国研究者、また人文科学系だけではなく、社会科学系の経済史研究者に参加していただいている。コメントーターは関西に限定せず、首都圏や松江・鹿児島などの各地から報告テーマに即した研究者を招聘した。いずれの報告に関しても活発に討論が行われ、報告・討論の時間を合わせて3時間半近くになることもあった。なお、本研究班では定例の研究会に加えて班員による出版書の書評会（2018年6月24日、上田貴子著『奉天の近代 移民社会における商会・企業・善堂』）を行い、中国の「制度」をさらに多角的に研究する機会を設けた。
11月09日	メンタルヘルス入門 — 一九七〇年を起点に何が生じてきたか？	発表者：上尾真道	研究班員	所内：村上衛、石川禎浩、岩井茂樹、籠谷直人、古松崇志、彭劍（招へい外国人学者）、漆麟（日本学術振興会外国人特別研究員）、安東強（招へい外国人学者）、王剛（招へい外国人学者）、趙曄（研究生）
12月18日	クリント・イーストウッドの変貌	発表者：中山昭彦（学習院大学）	学内：貴志俊彦（地域研究統合情報センター）、小島泰雄（人間・環境学研究科）、高嶋航（文学研究科）、江田憲治（人間・環境学研究科）、秋田朝美（経済学研究科）、郭	
12月22日	いまを知ることについて	発表者：小野塚知二（東京大学）		
2019年				
1月11日	エコロジー思想史入門	発表者：藤原辰史		
2月23日	The Dreadful Wreckage of History : The Bombing of Dresden in German Cultural Memory	発表者：Anne Fuchs (University College Dublin)		
4月7日	「話したい人」と「見せたい人」と「やってみたい人」と — 人文工学としてのアートの可能性を考える	発表者：小関 隆		
4月27日	Elements for a Theory of Post-68	発表者：岡田暁生		

まいか (文学研究科), 谷雪妮 (文学研究科), 都留俊太郎 (文学研究科), 李ハンキョル (文学研究科), 凌鵬 (社会学系), 駒込武 (教育学研究科), 奈良岡聰智 (法学研究科), 彭鵬 (人間・環境学研究科), 王天馳 (文学研究科), 上島享 (文学研究科), 北村由美 (附属図書館), 太田出 (人間・環境学研究科), 瞿艷丹 (文学研究科), 潘藝心 (人間・環境学研究科), 鈴木秀光 (法学研究科), 呉舒平 (法学研究科), Steven Ivings (経済学研究科), 巫靚 (人間・環境学研究科), 王怡然 (人間・環境学研究科), 塩出浩之 (文学研究科), 張子康 (文学研究科), 小堀慎悟 (文学研究科), 楊峻懿 (人間・環境学研究科), 久保田裕次 (大学文書館)

学外: 山崎岳 (奈良大学), 石川亮太 (立命館大学), 上田貴子 (近畿大学), 易星星 (兵庫県立大学), 大坪慶之 (三重大学), 岡本隆司 (京都府立大学), 荻恵里子 (京都府立大学), 小野寺史郎 (埼玉大学), 片山剛 (大阪大学), 加藤雄三 (専修大学), 金丸裕一 (立命館大学), 蒲豊彦 (京都橘大学), 菊池一隆 (愛知学院大学), 木越義則 (名古屋大学), 楠原俊代 (同志社大学), 小林亮介 (九州大学), 兒玉州平 (九州産業大学), 柴田陽一 (摂南大学), 坂井田夕起子 (愛知大学), 城地孝 (同志社大学), 城山智子 (東京大学), 園田節子 (兵庫県立大学), 瀧田豪 (京都産業大学), 田口宏二郎 (大阪大学), 田中剛 (帝京大学), 団陽子 (神戸大学), 陳来幸 (兵庫県立大学), 富澤芳亜 (島根大学), 豊岡康史 (信州大学), 西山喬貴 (University College London), 根無新太郎 (京都府立大学), 狭間直樹 (京都大学), 浜田直也 (神戸女子大学), 細見和弘 (立命館大学), 堀地明 (北九州市立大学), 松村光庸, 丸田孝志 (広島大学), 三田剛史 (明治大学), 宮内肇 (立命館大学), 村尾進 (天理大学), 望月直人 (大阪経済法科

大学), 森時彦 (京都大学), 森川裕貫 (関西学院大学), 吉田建一郎 (大阪経済大学), 吉田豊子 (京都産業大学), 劉雯 (兵庫県立大学), 鷲尾浩幸 (北海道大学), 彭浩 (大阪市立大学), 篠原由華 (同志社大学), 木村可奈子 (名古屋大学), 岩本真利絵 (大谷大学), 奥村哲 (首都大学東京), 梶谷懐 (神戸大学), 箱田恵子 (京都女子大学), 濱島敦俊 (大阪大学), 平井健介 (甲南大学), 山本一 (立命館大学), 森万佑子 (京都府立大), 村田雄二郎 (同志社大学), 土居智典 (長崎外国語大学), 金順姫 (朝日新聞), 小野達哉 (同志社大学)

# 研究実施内容

## 2018 年

4 月27日 順治十年正月の『刑科史書』からみた  
清初刑部の一側面

発表者: 王 天馳 (文学研究科)

コメンテーター: 谷井陽子  
(天理大学)

5 月18日 “Adulterated” Chinese Tea on the  
Late 19th-Century US Market: Pro-  
ducer Connivance or Consumer Pre-  
judice? 発表者: Robert Hellyer

(ウェイクフォレスト大学  
(日文研))

コメンテーター: 古田和子  
(慶應義塾大学)

6 月1日 清朝在外公館における西洋人スタッフ  
とそのメディア活動—D.B. マッカー  
ティーの琉球帰属問題をめぐる言説を  
中心として 発表者: Thomas Barrett

(東京大学)

コメンテーター: 箱田恵子  
(京都女子大学)

6 月15日 長崎の聖堂と孔子廟—日中の近世・  
近代を考える

発表者: 岡本隆司 (京都府立大学)

コメンテーター: 彭 浩  
(大阪市立大学)



- 6月29日 北鬼氏〈大清憲法案〉訳読報告  
発表者：彭 劍（華中師範大学）  
コメンテーター：村田雄二郎（同志社大学）
- 7月13日 清代学政規制与皇権体制  
発表者：安東 強（中山大學）  
コメンテーター：狭間直樹
- 7月20日 民国初期、上海共同租界における犯人引き渡し交渉について  
発表者：郭まいか（文学研究科）  
コメンテーター：孫 安石（神奈川大学）
- 10月5日 民国期中国における水産人材育成の模索  
発表者：楊 峻懿（人間・環境学研究科）  
コメンテーター：佐々木貴文（鹿児島大学）
- 10月19日 杜亜泉の言説における社会主義—社会主義と文明の調和  
発表者：李ハンキョル（文学研究科）  
コメンテーター：石川禎浩
- 11月2日 1930年代南京国民政府の借款とその帰結—棉花からみた棉麦借款  
発表者：秋田朝美（経済学研究科）  
コメンテーター：久保 亨（信州大学）
- 11月16日 1910年代中国の米禁と1918年対日米穀輸出問題  
発表者：堀地 明（北九州市立大学）  
コメンテーター：木越義則（名古屋大学）
- 12月7日 1950～70年代の中国の綿製品輸出について—日本紡績協会の調査から見えるもの  
発表者：富澤芳亜（島根大学）  
コメンテーター：渡邊純子（経済学研究科）
- 12月21日 近代北京における肺結核予防治療の出現と展開：1930年代を中心として  
発表者：瞿 艶丹（文学研究科）
- 2019年
- 1月18日 「アート・スペース」としての日中戦争期の中ソ文化協会  
発表者：漆 麟  
コメンテーター：呉 孟晋（京都国立博物館）
- 2月1日 英領西インド諸島における中国移民の社会的地位向上：1930-40年代の分析を中心に  
発表者：園田節子（兵庫県立大学）  
コメンテーター：原不二夫
- 2月15日 日本軍占領下のアモイと日本仏教の宣撫工作—真宗大谷派の神田恵雲を中心に  
発表者：坂井田夕起子（愛知大学）  
コメンテーター：松金公正（宇都宮大学）
- 2月22日 ある宣撫官の長い道のり—戦犯・笠実の日中戦争  
発表者：太田 出（人間・環境学研究科）  
コメンテーター：大澤武司（熊本学園大学）
- 3月1日 清末日本の蚕糸業学校に学んだ中国人留学生について  
発表者：王 怡然（人間・環境学研究科）  
コメンテーター：富澤芳亜（島根大学）
- 東アジア古典文献コーパスの実証研究  
班長 安岡孝一  
研究期間 2016年4月—2020年3月（3年度目）  
研究実施状況  
平成30年度は、Universal Dependencies を用いて漢文を記述する手法に対し、Edwin George Pulleyblank の『Outline of Classical Chinese Grammar』の各例文を記述することで、その有効性の検証をおこなった。この結果、この手法の有効性に、かなりの確信を持ったことから、『孟子』『論語』『大学』『中庸』の全文を Universal Depen-

dencies で記述すべく、調査と作業をおこなっている。また、この手法によって構築した古典中国語の依存文法解析エンジンの能力を検証すべく、大学入試センター試験『国語』の問題のうち、漢文の本文部分に対して、どの程度の自動解析がおこなえるかを検証中である。

#### 研究班員

所内：Christian Wittern, 池田巧, 守岡知彦, 白須裕之

学外：山崎直樹（関西大学）、二階堂善弘（関西大学）、師茂樹（花園大学）、鈴木慎吾（大阪大学）

#### 研究実施内容

##### 2018 年

- 4 月20日 2018 年度活動方針
- 5 月12日 MeCab-Kanbun to CoNLL-U
- 6 月8日 Universal Dependencies による『Outline of Classical Chinese Grammar』の例文検討
- 6 月22日 Universal Dependencies による『Outline of Classical Chinese Grammar』の例文検討
- 7 月6日 Universal Dependencies による『Outline of Classical Chinese Grammar』の例文検討
- 7 月20日 Universal Dependencies による『Outline of Classical Chinese Grammar』『孟子』の例文検討
- 8 月18日 人文科学とコンピュータ第 118 回研究発表会『古典中国語 UD コーパスの IPFS を用いた表現の試み』
- 9 月7日 M. Bernhard Karlgren 「LE PROTO-CHINOIS, LANGUAGE FLEXIONELLE」再検討
- 9 月21日 「古典中国語（漢文）の依存文法解析と直接構成要素解析」セラチェック
- 10 月12日 「漢文の依存文法解析と返り点の関係について」セラチェック
- 10 月26日 UDPipe Visualizer
- 11 月16日 Universal Dependencies による『大学』の例文検討

12 月7日 Universal Dependencies による『孟子』の例文検討

12 月21日 Universal Dependencies による『論語』の例文検討

##### 2019 年

1 月11日 Universal Dependencies による『孟子』の例文検討

1 月25日 センター漢文を MeCab+UDPipe で読む

2 月9日 センター漢文を MeCab+Stanford NLP で読む

#### 東西知識交流と自国化 — 汎アジア科学文化論

班長 武田時昌

研究期間 2017 年 4 月－2020 年 3 月（2 年度目）

##### 研究実施状況

東アジア世界の科学文化を構造的に把握するために、異国間における科学知識の接触現象にスポットを当て、受容過程と自国化していく史的展開の諸様相について汎アジアの視点から多角的な考察を試みた。本年度は、『宿曜経』の会読を行い、日本に多く残存する中世、近世の写本を校合しながら密教占星術が中国、日本の天文暦学にどのような作用を発揮したのかを検討した。未来創成学国際研究ユニット外国人教員として招聘した首都医科大学・副教授の張浄秋氏及び北京中医薬大学教授の梁永宣氏の協力を得て、中国から研究者 10 名を招聘し、6 月 16-17 日に日中医学史セミナーを開催し、次世代を担う若手、中堅研究者の交流を促進し、国際共同研究の新たな基盤作りを行った。また、12 月には、北京大学外国語学院教授の陳明氏を招聘し、インド、中国、日本の中世から近世にかけての医薬文化交流をめぐる特別講演会を催すとともに、来年度に北京にて共催シンポジウムを行うための協議を行った。

##### 研究班員

所内：武田時昌, Bill Mak, 高井たかね, 宮紀子

学内：上田真啓（文学研究科・非常勤講師）、伊藤裕水（文学部・非常勤講師）、伊藤令子（文学研究科・OD）、瞿艶丹（文学研究科・博士後期課程）、成高雅（人間・環境学研究科・博士後期課程）、趙ウニル（文

学研究科・OD), 劉青 (人間・環境学研究科・博士後期課程)

学外: 高橋あやの (関西大学), 宮島一彦 (中之島科学研究所・研究員, 同志社大学・元教授), 清水浩子 (大正大学), 矢野道雄 (京都産業大学・名誉教授), 梅林誠爾 (熊本県立大学・名誉教授), 白雲飛 (大阪府立大学・客員研究員), 平岡隆二 (熊本県立大学・准教授), 岡田正彦 (天理大学・教授), 吉田薫 (東亜天文学会), 佐々木聡 (大阪府立大学・特別研究員), 福島雅淳 (神戸学院大学・博士後期課程), 名和敏光 (山梨県立大学), 古藤友子 (国際基督教大学), 宮崎順子 (関西大学・非常勤講師), 奈良場勝 (暁星高校・講師), 相川佳予子 (奈良女子大学・元教授), 安部郁子 (財研医会・研究員, 図書館長), 新井晋司 (同志社女子大学・非常勤講師), 家本旬二 (鍼灸師), 猪飼祥夫 (北里大学), 池内早紀子 (大阪府立大学・修士課程), 石井行雄 (北海道教育大学釧路校・准教授), 岩間真知子 (日中茶文化研究家), 浦山あゆみ (大谷大学), 大形徹 (大阪府立大学・教授), 王財源 (関西医療大学), 桐浴眞智子 (大阪医科大学附属病院・鍼灸師), 熊野弘子 (関西大学・非常勤講師), 古藤友子 (国際基督教大学), 小林博行 (中部大学准教授), 坂井里奈 (神戸学院大学・非常勤講師), 島山奈緒子 (関西医療大学・非常勤講師), 高田宗平 (大阪府立大学・客員研究員), 多田伊織 (大阪府立大学・客員研究員), 塚本明日香 (岐阜大学), 張莉 (大阪教育大学), 豊田裕章 (大阪府立豊中支援学校・教諭), 長野仁 (森ノ宮医療大学大学院・教授), 中吉隆之 (関西医療大学), 奈良上眞 (大阪医療技術学園専門学校・教員), 橋本敬造 (関西大学・名誉教授), 濱口昭宏 (医学統合研究会・代表), 早川尚志 (大阪大学), 林みどり (関西医療大学・非常勤講師), 平地治美 (千葉大学・非常勤講師),

松岡尚則 (公益財団法人研医会・研究員), 三鬼丈知 (大谷大学), 光平有希 (国際日本文化研究センター・研究員), 横大路綾子 (大阪府立大学), 吉村美香 (愛知淑徳大学), 梁永宣 (兵庫医科大学), 渡邊真弓 (関西医療大学・研究員), Beatriz Puente-Ballesteros (マカオ大学・助教)

# 研究実施内容

2018 年

5 月14日 宿曜経研究会

『宿曜経』巻上, 序日宿直所生品第二  
昂・畢・髻 発表者: 白 雲飛

6 月15日 日中医学史セミナー 2018 in Kyoto

「伝統医療文化の問題圏」〈セッション  
1 出土簡帛と医療文化〉〈セッション  
2 近世養生学のベクトル〉

新出土医史籍をめぐる二, 三の考察

発表者: 名和敏光

(山梨県立大学・准教授)

放馬灘簡《鐘律式占》疾病占卜の數術  
模型 発表者: 程 少軒

(復旦大学・副研究員)

出土秦漢医方中度量衡問題芻議

発表者: 胡 穎翀

(上海市中医文献館・助理研究員)

朱權『活人心』の朝鮮と日本における  
伝播 ― 諸本の比較を通して ―

発表者: 劉 青

(京都大学人間環境学研究科・D2)

江戸時代の養生書刊行とその普及

発表者: 入口敦志

(国文学研究資料館・教授)

江戸時代の養生書刊行とその普及

コメンテーター: 名和敏光

(山梨県立大学・准教授)

6 月16日 日中医学史セミナー 2018 in Kyoto

「伝統医療文化の問題圏」〈セッション  
3 医薬文献の新考察〉〈セッション4  
伝統科学文化の新アプローチ〉〈セッ  
ション5 文化的伝統と医学教育〉

富士川文庫の新出資料

- 発表者：成 高雅  
（京都大学人間・環境学研究所・D2）  
朝鮮《医方類聚》引用中国傷寒金匱類  
文献考 発表者：黄 英華  
（北京中医药大学図書館・  
助理研究員）  
《太平御覽》所載医薬文献整理研究 —  
以《疾病部》為考察中心  
発表者：孟 永亮  
（内蒙古医科大学中医学院  
文史各家教研室・講師）  
滑寿医籍及其存世版本考辨  
発表者：張 淨秋  
（首都医科大学・副教授）  
《素問玉版論要篇》の中医象数学初歩  
研究 発表者：呉 新明  
（広東省中医院名医工作室・  
助理研究員）  
陳蓋謨の『元音統韻』と『五車韻府』  
～科学と音韻のかかわり～  
発表者：浦山あゆみ  
（大谷大学文学部・教授）  
伝統医療文化からみた美容鍼灸学  
発表者：王 財源  
（関西医療大学・教授）  
四国医療専門学校が所蔵するふたつの  
張子二体組銅人形について  
発表者：松木宣嘉  
（四国医療専門学校・教員）  
日本諾貝爾生理学或医学獎獲得者の成  
因研究 発表者：付 徳明  
（山西医科大学、副教授）  
民国初期中国的医学教育与日本  
発表者：牛 亜華  
（中国中医科学院中医薬信息研究所、  
古籍資源研究室、研究員）  
6月17日 日中医学史セミナー 2018 in Kyoto  
「伝統医療文化の問題圏」〈セッション  
6 伝統医療の現代〉  
満鉄遺跡と大連大学護理学院関係研究  
発表者：鄭 賢月

- （大連大学護理学院、副教授）  
日本漢方顆粒剤与中国医学  
発表者：梁 永宣  
（北京中医药大学、  
兵庫医大中医薬孔子学院、教授）  
巡回診療の地縁政治学：対 20 世紀前  
半日本東蒙古巡回診療の考察  
発表者：財吉拉胡  
（中山大学社会学与人類学学院  
人類学系、副研究員）  
6月17日 日中医学史セミナー 2018 in Kyoto  
「伝統医療文化の問題圏」公開シンポ  
ジウム「アジアの中の日本古典籍 —  
医学・理学・農学書を中心として—」  
漢字圏医史の定量比較・人文地理学研  
究 発表者：真柳 誠  
（茨城大学・名誉教授）  
薩摩、琉球博物學探論  
発表者：高津 孝  
（鹿児島大学・教授）  
「採薬記」から名所記へー『本朝奇跡  
談』—を中心に 発表者：平野 恵  
（台東区立中央図書館・専門員）  
都賀庭鐘の読本 『通俗医王者婆伝』  
発表者：福田安典  
（日本女子大学・教授）  
薩摩、琉球博物學探論／「採薬記」か  
ら名所記へー『本朝奇跡談』—を中心  
に／都賀庭鐘の読本 『通俗医王者婆  
伝』 コメンテーター：名和敏光  
（山梨県立大学・准教授）  
総合討論「中医学、漢方医学からエコ  
ヘルスを考える」 司会：武田時昌  
（京都大学人文科学研究所・教授）  
6月23日 宿曜經研究会  
『宿曜經』巻上、序日宿直所生品第二  
参・井・鬼・柳 発表者：清水浩子  
7月30日 宿曜經研究会  
『宿曜經』巻上、序日宿直所生品第二  
星・張・翼 発表者：小林博行  
9月17日 宿曜經研究会

- 『宿曜経』巻上, 序日宿直所生品第二  
軫・角・亢・氏 発表者: 白 雲飛  
10月22日 宿曜経研究会
- 『宿曜経』巻上, 序日宿直所生品第二  
房・心・尾 発表者: 小林博行  
12月09日 敦煌出土医書と古代アジア医学知識の  
異文化伝流 発表者: 陳 明  
(北京大学外国語学院南亚学系・  
教授)  
房中書窺見 発表者: 永塚憲次  
(研医会図書館・研究員)  
外傷の漢方薬と鍼灸～自験例を中心に  
～ 発表者: 平地治美 (和光治療院・  
漢方薬局, 千葉大学医学部医学院  
和漢診療学講座・非常勤講師)
- 12月10日 宿曜経研究会  
『宿曜経』巻上, 序日宿直所生品第二  
箕・斗・牛 発表者: 白 雲飛
- 2019 年
- 1 月14日 宿曜経研究会  
『宿曜経』巻上, 序日宿直所生品第二  
女・虚・危 発表者: 小林博行
- 3 月 4 日 宿曜経研究会  
『宿曜経』巻上, 序日宿直所生品第二  
参 発表者: 清水浩子
- 3 月10日 東京ミーティング 2019  
中国古代の惑星観 発表者: 武田時昌  
古記録所見の勘文と『天地瑞祥志』佚  
文 発表者: 名和敏光 (山梨県立大学)  
刑徳小遊小考 ― 帛書『刑徳』乙編を  
中心に ―  
発表者: 小倉 聖 (早稲田大学)  
『靈台秘苑』の比較研究  
発表者: 高橋あやの (関西大学)  
前漢今文経学について  
発表者: 伊藤裕水 (文学部)  
治療禁忌日について  
発表者: 島山奈緒子  
『活人心』にみえる道教思想について  
発表者: 劉 青  
(人間・環境学研究科)

瀧川亀太郎手録『史記正義佚存』二巻  
の発見 ― 京都大学人文科学研究所図  
書室への寄贈と中華書局での翻刻まで  
の過程 ― 発表者: 小沢賢二  
(南京師範大学文学院)

# チベット文明の継承と史的展開の諸相

班長 池田 巧

研究期間 2018 年 4 月―2021 年 3 月 (1 年度目)

研究実施状況

〔研究会と研究報告〕本年度は合計で 8 回の研究会を行うことができた。歴史学, 宗教学, 文化人類学, 言語学の各分野から, 古代～現在にいたるまでのチベット文化の諸相について最先端の研究動向を踏まえたうえで, 水準を維持しながらも現在までの研究で何がどこまで明らかにされてきたかを平易に解説する原稿を分担で執筆し, 分野横断的に多角的な検討を加えた。異なる分野からの視点による学際的な情報提供と意見交換を活発に行なった。〔概論の編集〕本研究班の成果をまとめた概論『チベット文明の歴史的展開』(仮題)の編集会議を研究会の開催にあわせて行ない, 研究期間内の刊行に向けて編集作業を進めた。

研究班員

所内: 池田巧, 稲葉穰, 中西竜也

学内: 熊谷誠慈 (こころの未来研究センター), マルク=アンリ・デロッシュ (総合生存学館), 安田章紀 (こころの未来研究センター), 長岡慶 (アジア・アフリカ地域研究科)

学外: 武内紹人 (神戸市外国語大学), 西田愛 (神戸市外国語大学), 大川謙作 (日本大学), 別所裕介 (駒澤大学), 星泉 (東京外国語大学), 根本裕史 (広島大学), 池尻陽子 (関西大学), 海老原志穂 (東京外国語大学), 山本明志 (大阪国際大学), 小西賢吾 (金沢星稜大学), 山本達也 (静岡大学), 小野田俊蔵 (佛教大学), 三宅伸一郎 (大谷大学), 小松原ゆり (明治大学), 村上大輔 (駿河台大学), 井内真帆 (神戸市外国語大学), 加納和雄 (駒澤大)

学), 大羽 恵美 (金沢大学), 大西 啓司 (龍谷大学), 黒田有誌 (龍谷大学), 岩尾一史 (龍谷大学)

#### 研究実施内容

##### 2018 年

- 4 月21日 研究班の方針について  
 5 月19日 概説書: 社会篇の検討 概説書: 歴史篇／社会篇の検討  
 6 月16日 概説書: 歴史篇の検討  
 7 月14日 概説書: 社会篇／歴史篇の検討  
 9 月22日 概説書: 言語篇／宗教篇の検討  
 10月13日 Tibetan Sign Language in Contact: The Linguistic Milieu of Deaf Tibetan Signers in Lhasa.  
 発表者: Theresia Hoffer (University of Bristol, UK)

- 12月15日 概説書: 言語篇／宗教篇の検討

##### 2019 年

- 1 月19日 概説書: 言語篇／宗教篇の検討  
 2 月16日 概説書: 言語篇／宗教篇の検討  
 3 月16日 概説書: 言語篇／宗教篇の検討; 文献案内の分担と執筆について

#### 北朝石窟寺院の研究

班長 岡村秀典

研究期間 2015 年 4 月～2020 年 3 月 (4 年度目)

#### 研究実施状況

水野清一・長廣敏雄『雲岡石窟』(全 16 巻 32 冊, 1951～1956 年) 図版解説の会読を隔週で実施し, 本年度は第 19 洞を検討した。その成果報告は 2018 年度の『東方学報』京都第 93 冊に外村中「漢訳『華嚴経』の原典『ブッダ・アヴァタンサカ・スートラ』の仏身論と宇宙論について」および岡村秀典「雲岡石窟の初期造像—曇曜五窟の仏龕を中心として」として掲載した。また, 当研究所と中国社会科学院考古研究所との共同編集により中国の科学出版社から刊行している『雲岡石窟』中英語版のうち第二期分 (第 8～第 16 巻) までは 2015 年度に出版され, 新たに執筆編集する第三期 (第 17～20 巻) の日本語版 4 巻 9 冊は 2017 年 8 月, 中国語版は 2018 年 6 月に刊行され, 全 20 巻 42 冊 (中国語版も同数) が完結した。また, 本年度は招へい研究員とし

て中国社会科学院考古研究所の李裕群先生と龍門石窟研究院の焦建輝先生をお招きし, 李先生には 5 回, 焦先生には 6 回の連続セミナーを開催していただいた。

#### 研究班員

- 所内: 安岡孝一, 稲本泰生, 向井佑介, 檜山智美, 倉本尚徳  
 学内: 内記理 (文化財総合研究センター), 折山桂子 (文学研究科), 常鈺熙 (人文科学研究科)  
 学外: 高橋早紀子 (愛知学院大学), 外山潔 (泉屋博古館), 齋藤龍一 (大阪市立美術館), 山名伸生 (京都精華大学), 大西磨希子 (佛教大学), 石松日奈子 (清泉女子大学), 濱田瑞美 (横浜美術大学), 佐藤智水 (龍谷大学), 田林啓 (白鶴美術館), 上枝いづみ (金沢大学), 高志緑 (大阪大学), 王珏人 (大阪大学)

#### 研究実施内容

##### 2018 年

- 4 月 3 日 雲岡石窟第十九洞 発表者: 岡村秀典  
 4 月17日 雲岡石窟第十九洞 発表者: 岡村秀典  
 5 月15日 太原蒙山開化寺佛閣遺址的発掘与初步研究 発表者: 李 裕群 (中国社会科学院考古研究所)  
 6 月 5 日 從鄴城至太原—古代交通路線上的北齊石窟 発表者: 李 裕群 (中国社会科学院考古研究所)  
 6 月19日 鄴城地区石窟与鄴城仏教 発表者: 李 裕群 (中国社会科学院考古研究所)  
 7 月17日 吐峪溝石窟溝西区高台窟群考古発掘 発表者: 李 裕群 (中国社会科学院考古研究所)  
 10月 2 日 雲岡石窟第十九洞 発表者: 黄 盼 (京都府立大学)  
 10月16日 雲岡石窟第十九洞 発表者: 黄 盼 (京都府立大学)  
 10月30日 雲岡石窟第十九洞 発表者: 黄 盼 (京都府立大学)  
 12月 4 日 龍門石窟初鑿窟像再考察



- 発表者：焦 建輝  
(龍門石窟研究院)
- 12月18日 龍門石窟北魏窟龕造像の分期  
発表者：焦 建輝  
(龍門石窟研究院)
- 2019 年
- 1 月15日 鄴相仏教与龍門初唐造像  
発表者：焦 建輝 (龍門石窟研究院)
- 1 月29日 華嚴信仰与龍門仏事  
発表者：焦 建輝 (龍門石窟研究院)
- 2 月 5 日 龍門擂鼓台石窟寺院考察  
発表者：焦 建輝 (龍門石窟研究院)
- 2 月19日 龍門石窟の“業道”像  
発表者：焦 建輝 (龍門石窟研究院)

前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア

班長 稲葉 穰

研究期間 2015 年 4 月ー2019 年 3 月 (4 年度目)

研究実施状況

本研究班は、中央アジア、南アジア、西アジアのフロンティアとしての「歴史的アフガニスタン」およびその周辺において何が起きてきたのか、そこを越えて移動した人やモノはフロンティアを超えた先でいかに機能したのかを、文献資料や出土資料をもとに検討し、「前近代におけるグローバリズム」がいかなる実態を持っていたのかを明らかにすることを目的として計画された。本年度もアフガニスタンの周辺地域における多様な文化交流に関する研究報告を実施するとともに、9 世紀に Abu Dulaf によって執筆されたアラビア語の旅行記である『第二書簡』の会読を終了させた。研究班の報告として日本語訳注を発表すべく原稿をとりまとめ中である。

研究班員

所内：船山徹、稲本泰生、中西竜也、宮本亮一  
(特別研究員)

学内：井谷鋼造 (文学研究科)、吉田豊 (文学研究科)、帯谷知可 (地域研究統合情報センター)、今松泰 (アジア・アフリカ地域研究研究科)、内記理 (文化財総合研究センター)、大津谷馨 (文学研究科博士後期課程)

学外：和田郁子 (岡山大学)、岩尾一史 (龍谷大学)、川本正知 (奈良学園大学)、入澤崇 (龍谷大学)、小野浩 (京都橘大学)、真下裕之 (神戸大学)、岩井俊平 (龍谷大学)、井上陽 (龍谷大学)、影山悦子 (奈良文化財研究所)、上枝いづみ (龍谷大学)、杉山雅樹 (京都外国語大学)、田中悠子 (ロンドン大学)

研究実施内容

2018 年

- 6 月 8 日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
Abu Dulaf 第二書簡会読  
発表者：稲葉 穰
- 6 月22日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
Abu Dulaf 第二書簡会読  
発表者：稲葉 穰
- 7 月13日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
Abu Dulaf 第二書簡会読  
発表者：宮本亮一  
(日本学術振興会)
- 7 月27日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
Abu Dulaf 第二書簡会読  
発表者：宮本亮一  
(日本学術振興会)
- 9 月28日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
フロンティアとしてのヒンドゥークシュ  
発表者：稲葉 穰
- 10月26日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
2017, 2018 年の碑刻銘文調査ー アゼルバイジャンー 発表者：井谷鋼造  
(京都大学大学院文学研究科)
- 11月09日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
2017, 2018 年ラシード・ウッディーン『歴史集成』写本のミニアチュール

- 総合研究科研報告 発表者：川本正知  
ラシード・ウッドイーン『歴史集成』  
第一巻の写本とミニアチュール  
発表者：川本正知
- 12月14日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
Al-Biruni and his interpretation of Yoga and Samkhya philosophies  
発表者：Noemie Verdon  
(University of Lausanne)
- 2019 年
- 1 月21日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
パルティア語ニサ陶片文書の世界  
発表者：春田晴郎（東海大学）
- 1 月25日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
13-14 世紀モンゴル支配期イランのペルシア語簿記術指南書にみえる経済活動  
発表者：渡部良子（東京大学）
- 2 月 8 日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
ウズベキスタン南部ファヤズテパ遺跡出土の仏教壁画について  
発表者：影山悦子  
(奈良文化財研究所)  
シルクロード天山北路の考古学 — キルギス共和国チュー渓谷における調査成果 —  
発表者：山藤正敏  
(奈良文化財研究所)
- 3 月 1 日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
Towards the Comprehensive Image Database on Bamiyan Buddhist Site  
発表者：Deborah Klimburg-Salter  
(Harvard University/  
University of Vienna)  
発表者：稲葉 穰  
発表者：長岡正哲（UNESCO）  
発表者：Verena Widorn  
(University of Vienna)
- 発表者：Jürgen Schörflinger  
(University of Vienna)
- 3 月15日 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトランス・フロンティア  
Chivalric Bands (Futuwwa/fityan) in Medieval Islamic Cities  
発表者：Deborah G. Tor  
(University of Notre Dame)
- 毛沢東に関する人文学的研究 班長 石川禎浩  
研究期間 2015 年 4 月－2019 年 3 月（4 年度目）  
研究実施内容  
当初 3 年計画で出発した本研究班であったが、論文集への取りまとめるにはなお議論や分析が足りないため、研究成果（論文集）刊行という研究目的の達成に近づくべく、1 年間研究班を延長し、さらに毛沢東をとりまく様々な謎や資料の発掘、解明につとめた。これまでと同様に、隔週金曜午後開催の研究班例会を中心に活動を進めた。班員は 30 数名、毎回の研究班例会の出席者は 17 名程度であった。研究班では、まず報告者が 1 時間半程度の報告を行ったあと、コメンテーターが 30 分程度の批評を加え、その上で全体討論を実施するという形式を取った。報告用レジュメを事前に班員に配布して準備にあたってもらおうという方針が浸透したおかげで、研究班例会での活発な議論が可能となった。また、2 名の招聘外国人学者と 1 名の外国人共同研究員をはじめ、（主として中華人民共和国からの）複数の外国人研究者・院生が継続的に参加していることも本研究班の特色であり、彼らとの討論を通じて、毛沢東に関する理解をいっそう深めることができた。
- 研究班員
- 2018 年
- 4 月20日 「新段階論」にかんする検討  
発表者：安 東強  
(招へい外国人学者)  
コメンテーター：江田憲治  
(京大人間・環境学研究科)
- 5 月11日 『人民日報』における「自由主義」と毛沢東：戦後内戦期を中心として  
発表者：水羽信男（広島大学）

- コメンテーター：金野 純  
(学習院女子大学)
- 5月25日 毛沢東と中国共産党根拠地における抗  
戦記念活動  
発表者：鄒 燦 (大阪大学)  
コメンテーター：小野寺史郎  
(埼玉大学)
- 6月8日 毛沢東と水泳  
発表者：高嶋 航 (文学研究科)  
コメンテーター：彭 劍  
(華中師範大学)
- 6月22日 戯劇学院の文化大革命序説  
発表者：瀬戸 宏 (摂南大学)  
コメンテーター：楊 韜 (佛教大)
- 7月27日 毛沢東の継続革命論再考  
発表者：谷川真一 (神戸大)  
コメンテーター：田中 仁 (大阪大)
- 9月28日 中西功がみる中国革命と毛沢東 ― そ  
の戦中と戦後  
発表者：谷 雪妮 (文学研究科)  
コメンテーター：中村元哉  
(津田塾大学)
- 抗日戦争期における中国共産党と中国  
ナショナリズム言説  
発表者：川口美柚 (文学研究科)  
コメンテーター：水羽信男 (広島大)
- 10月12日 中国共産党の「五四」記念と文学革命  
論争  
発表者：江田憲治  
(人間・環境学研究科)  
コメンテーター：小野寺史郎  
(埼玉大)
- 10月26日 北有周作人，南有張資平？ ― 「文芸講  
話」における張資平の「漢奸文芸」問  
題  
発表者：祝 世潔 (文学研究科)  
コメンテーター：丸田孝志  
(広島大)
- 11月09日 文革期における雑誌『北京文藝』  
発表者：瀬辺啓子 (佛教大)  
コメンテーター：江田憲治  
(人間・環境学研究科)
- 11月30日 戦後韓国における毛沢東像
- 発表者：李ハンキョル  
(文学研究科)
- コメンテーター：村田雄二郎  
(同志社大)
- 毛沢東時代の肺結核治療法について  
発表者：瞿 艷丹 (文学研究科)  
コメンテーター：森川裕貫  
(関西学院大)
- 12月14日 美術の社会主義リアリズム前史  
発表者：漆 麟  
コメンテーター：福家崇洋
- 2019 年
- 1月11日 『毛沢東選集』第五巻について  
発表者：田中 仁 (大阪大学)  
コメンテーター：谷川真一  
(神戸大学)
- 1月25日 フランスのマオイスム：1960-1970 年  
代  
発表者：王寺賢太  
コメンテーター：村上 衛
- 2月8日 1950年代水利事業における国家指導  
者像  
発表者：島田美和 (慶應義塾大学)  
コメンテーター：岩井茂樹
- 3月8日 「反思」についての一考察 ― 毛沢東と  
回想録を手がかりに  
発表者：楠原俊代  
(同志社大学名誉教授)
- 毛沢東研究班を終えるにあたって  
発表者：石川禎浩  
コメンテーター：高嶋 航  
(文学研究科)
- 楽しんで読む戦国竹書 ― 中国古代の基礎史料  
班長 浅原達郎
- 研究期間 2016年4月-2019年3月 (3年度目)
- 研究実施状況
- 三年の研究班「楽しんで読む戦国竹書」の最終年  
度になる。昨年度から、班長ひとりによる戦国竹書  
の講読と、シニアの公式班員による自由な議論を組  
み合わせてきたが、最終年度もその形式で進めた。  
毎回の詳細をウェブサイト上に記録することもこれ

までどおりで、2004 年の「中国古代の基礎史料」班発足以来、15 年継続したことになる。戦国竹書について今年度は、読みかけだった『清華大学蔵戦国竹簡』第 5 冊の厚父から始めて、封許之命、命訓を読み、つぎは湯処於湯丘にとりかかる予定。また、『曰古』第 30 号（10 月 26 日）を発行し、上海博物館蔵楚簡の武王踐そと鄭子家喪についての読書札記および清華大学蔵簡の繁年にみえる斉長城にかかわる論文を掲載した。なお、昨年度末には『曰古』第 29 号（3 月 30 日）を発行して、上海博物館蔵楚簡の天子建州についての読書札記と清華大学蔵簡の良臣・祝辞、別卦にかかわる論文を発表している。

#### 研究班員

所内：宮紀子、守岡知彦  
学外：森賀一恵（富山大学）

#### 東方文化学院京都研究所旧蔵漢籍の整理と研究

班長 矢木 毅

研究期間 2016 年 4 月－2021 年 3 月（3 年度目）

#### 研究実施状況

毎週水曜日、14 時より 16 時まで、分館書庫にて開催（12 月以降は避寒のため、本館講義室にて開催）。前期は 4 月 11 日より 7 月 25 日まで（計 16 回）。後期は 10 月 10 日より 1 月 30 日まで（計 14 回）。通年で 30 回開催。本年度は集部別集類および中江文庫経部の内容を検討した。毎回の検討の成果を「典拠情報」としてまとめ、「全国漢籍データベース」にリンクさせた形でウェブ上に公開している。なお、関連する成果として『京大人文研蔵書印譜（三）』と題する図録（センター資料叢刊第 25 冊）を東アジア人文情報学研究センターより刊行し、リポジトリ「紅」においても公開した。

#### 研究班員

所内：クリスティアン・ウィッテルン、古勝隆一、高井たかね、永田知之、藤井律之、宮宅潔、古松崇志、福谷彬  
学内：道坂昭廣（人間・環境学研究科）、小野木聡、瞿艷丹  
学外：木村可奈子（日本学術振興会 PD 研究員（名古屋大学））、岩本真利絵（大谷大学・助教）

#### 研究実施内容

2018 年

- |          |  |
|----------|--|
| 4 月 11 日 | 東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類唐五代之属<br>発表者：クリスティアン・ウィッテルン             |
| 4 月 18 日 | 東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類唐五代之属<br>発表者：クリスティアン・ウィッテルン<br>発表者：古勝隆一 |
| 4 月 25 日 | 東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類唐五代之属<br>発表者：古勝隆一                       |
| 5 月 2 日  | 東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類唐五代之属<br>発表者：高井たかね                      |
| 5 月 09 日 | 東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類唐五代之属<br>発表者：高井たかね<br>発表者：永田知之          |
| 5 月 16 日 | 東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類唐五代之属<br>発表者：永田知之                       |
| 5 月 23 日 | 東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類唐五代之属<br>発表者：永田知之<br>発表者：藤井律之           |
| 5 月 30 日 | 東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類唐五代之属<br>発表者：藤井律之                       |
| 6 月 6 日  | 東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類唐五代之属<br>発表者：藤井律之<br>発表者：古松崇志           |
| 6 月 13 日 | 東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類唐五代之属<br>発表者：古松崇志<br>発表者：宮宅 潔           |
| 6 月 20 日 | 東方文化学院京都研究所漢籍目録 集部別集類唐五代之属                                   |

人 文 学 報

		発表者：宮宅 潔	12月19日	中江文庫 経部	発表者：宮宅 潔
6月27日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集		12月26日	中江文庫 経部	発表者：矢木 毅
	部別集類唐五代之属		2019年		
		発表者：矢木 毅	1月09日	中江文庫 経部	発表者：古松崇志
7月4日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集		1月16日	中江文庫 経部	発表者：藤井律之
	部別集類唐五代之属		1月30日	中江文庫 経部	発表者：福谷 彬
		発表者：福谷 彬			
7月11日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集				漢籍リポジトリの基礎的研究
	部別集類唐五代之属				班長 クリスティアン・ウィッテルン
		発表者：福谷 彬	研究期間	2016年4月ー2021年3月（3年度目）	
7月18日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集		研究実施状況		
	部別集類北宋之属				今年度も国際的なデジタル・ヒューマニティーズ
		発表者：クリスティアン・			の動きを確認しながら漢籍リポジトリの内容を充実
		ウィッテルン			させて、利用と利便性を高めることを図った。具体
7月25日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集				的に「汉学数位基础建设研讨会—Conference on a
	部別集類北宋之属				Digital Foundation for Sinology」, JADH2018,
		発表者：クリスティアン・			TEI2018, 「GSD Global Smart Data」と DADH2018
		ウィッテルン			に参加し、研究班でそこで得た情報を共有し、内容
		発表者：高井たかね			を議論した。今回は TRCSS(台湾漢学リソースセン
10月10日	東方文化学院京都研究所漢籍目録				ター)との共同開催で「臺灣漢學講座」が開催され
	集部別集類北宋之属				た、台湾のデジタル・ヒューマニティーズについて
		発表者：古勝隆一			の報告を行った。年度の後半から漢籍リポジトリの
10月17日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集				次のバージョンの準備を始めた。その一環としては
	部別集類北宋之属	発表者：古勝隆一			まず漢籍リポジトリの目録を国際図書館連盟で提唱
10月24日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集				された IFLA-LRM のモデルに基づいてのモデリン
	部別集類北宋之属	発表者：古勝隆一			グを始めた。
		発表者：高井たかね			研究班員
10月31日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集				所内：安岡孝一、古勝隆一、永田知之、ビル・
	部別集類北宋之属				マック
		発表者：高井たかね			学内：宮崎泉（文学研究科）
11月14日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集				学外：白須裕之（人文科学研究所研究員）
	部別集類北宋之属	発表者：永田知之			研究実施内容
11月21日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集				2018年
	部別集類北宋之属	発表者：永田知之	4月24日		「汉学数位基础建设研讨会—Con-
11月28日	東方文化学院京都研究所漢籍目録 集				ference on a Digital Foundation for
	部別集類北宋之属	発表者：藤井律之			Sinology」の報告
12月5日	中江文庫 経部	発表者：高井たかね	5月8日		前年度のまとめ、漢籍リポジトリの現
	経部	発表者：古勝隆一			状と今年度の予定
12月12日	中江文庫 経部		5月22日		漢籍リポジトリのアクセス方法
		発表者：クリスティアン・	6月12日		台湾訪問報告
		ウィッテルン	6月26日		TRCSS 講演会：The Digital Hu-

	manities in Taiwan : Past, Present and Future		発表者：藤井律之
7月18日	台湾中央研究院の三種漢語語料庫	4月27日	岳麓簡会読 142-150
10月09日	JADH2018, TEI2018 に見える人文情報学の国際動向	5月11日	岳麓簡会読 142-150
11月13日	IIIF (Image Annotator) と漢籍リポジトリ	5月25日	岳麓簡会読 151-159
11月27日	漢籍リポジトリの目録と IFLA-LRM		発表者：目黒杏子 (人文研・非常勤研究員)
12月11日	IFLA-LRM と漢籍リポジトリの応用：〈KR1h 四書類〉テキストの関係	6月1日	岳麓簡会読 151-159
2019年			発表者：目黒杏子 (人文研・非常勤研究員)
1月8日	IFLA-LRM・FRBR と TEI の関係	6月15日	岳麓簡会読 151-159
1月22日	漢籍リポジトリの目録を IFLA-LRM・FRBR に基づいてのモデリング		発表者：目黒杏子 (人文研・非常勤研究員)
		6月22日	岳麓簡会読 160-168
		6月29日	岳麓簡会読 160-168
		7月6日	岳麓簡会読 160-168
		7月20日	岳麓簡会読 160-168
		7月27日	岳麓簡会読 169-176
			発表者：安永知晃 (関西学院大学)
		8月3日	岳麓簡会読 169-176
			発表者：安永知晃 (関西学院大学)
		9月7日	里耶秦簡会読 8-791~8-816
			発表者：斎藤賢 (文学研究科)
		9月21日	岳麓簡会読 169-176
			発表者：安永知晃 (関西学院大学)
		9月28日	里耶秦簡会読 8-817~8-840
			発表者：鷹取祐司 (立命館大学)
		10月12日	岳麓簡会読 169-176
			発表者：安永知晃 (関西学院大学)
		10月26日	里耶秦簡会読 8-817~8-840
			発表者：鷹取祐司 (立命館大学)
		11月2日	岳麓簡会読 177-183
			発表者：古勝隆一
		11月16日	里耶秦簡会読 8-817~8-840
			発表者：鷹取祐司 (立命館大学)
		11月30日	岳麓簡会読 177-183
			発表者：古勝隆一
		12月7日	国際シンポジウム 里耶秦簡研究と中国 古代の文書伝達
			里耶出土「異処簡」小考：封検を中心
2018年			
4月13日	岳麓簡会読 142-150		

## 秦代出土文字史料の研究

班長 宮宅 潔

研究期間 2016年4月-2021年3月(3年度目)

研究実施状況

里耶秦簡・岳麓簡の概要を紹介し、その内容や研究状況について意見を交換したうえで、項目7に示したように会読を進めた。会読により作成された訳注(岳麓書院所蔵簡《秦律令(壹)》訳注稿 その2)は、東方学報93冊に掲載予定である。これと平行して、研究班の活動内容を紹介するHPを作成し、そこに里耶秦簡に関する札記を公開した(<http://www.shindai.zinbun.kyoto-u.ac.jp/index.html>)。

研究班員

所内：藤井律之、古勝隆一、宮宅潔、目黒杏子、陳捷、朱騰、魏永康

学内：宗周太郎(文学研究科)、斎藤賢(文学研究科)

学外：郭聡敏(立命館大学・文学研究科・博士前期)、佐藤達郎(関西学院大学文学部・教授)、角谷常子(奈良大学文学部・教授)、鷹取祐司(立命館大学文学部・教授)、土口史記(岡山大学)、安永知晃(関西学院大学・文学研究科博士課程後期課程)

研究実施内容



<p>に 発表者：土口史記（岡山大学） 秦漢檄書初探 発表者：畑野吉則 （日本学術振興会・特別研究員）</p>	<p>学外：石垣明貴紀（龍谷大学），桐原孝見（龍谷大学），中西久味（新潟大学），松岡寛子（仏教伝道教会），村田みお（近畿大学）</p>
<p>12月14日 里耶秦簡会読 8-841～8-878 発表者：佐藤達郎（関西学院大学）</p>	<p>研究実施内容 2018 年</p>
<p>12月21日 岳麓簡会読 177-183 発表者：古勝隆一</p>	<p>4月6日 『廣弘明集』卷 22 隋煬帝「寶臺經藏願文」の訳注作成 発表者：古勝隆一</p>
<p>2019 年 1月25日 里耶秦簡会読 8-841～8-878 発表者：佐藤達郎（関西学院大学）</p>	<p>4月20日 「請御制經序表」，「勅答玄奘法師前表」，太宗文皇帝「三藏聖教序」の訳注作成 発表者：稲本泰生</p>
<p>2月1日 岳麓簡会読 177-183 発表者：古勝隆一</p>	<p>6月1日 太宗文皇帝「三藏聖教序」の訳注作成 発表者：稲本泰生</p>
<p>2月8日 里耶秦簡会読 8-841～8-878 発表者：佐藤達郎（関西学院大学）</p>	<p>6月15日 「謝勅齋經序啓」，「勅答謝啓」の訳注作成 発表者：中西竜也</p>
<p>2月15日 岳麓簡会読 207～214 発表者：宮宅潔</p>	<p>9月21日 「皇太子答沙門玄奘謝聖教序書」「金剛般若經注序」の訳注作成 発表者：上島 享（文学研究科）</p>
<p>2月22日 里耶秦簡会読 8-879～8-897 発表者：目黒杏子 （人文研・非常勤研究員）</p>	<p>10月5日 李儼「金剛般若經集註序」の訳注作成 発表者：中西久味 （新潟大学名誉教授）</p>
<p>3月1日 岳麓簡会読 207～214 発表者：宮宅潔</p>	<p>10月19日 「金剛般若經集註序」，「與翻經大德等書」の訳注作成 発表者：中西竜也</p>
<p>3月8日 里耶秦簡会読 8-879～8-897 発表者：目黒杏子 （人文研・非常勤研究員）</p>	<p>11月16日 「皇太子臣治述 聖記三藏經序」の訳注作成 発表者：船山 徹</p>
<p>3月22日 岳麓簡会読 184～193 発表者：佐藤達郎（関西学院大学）</p>	<p>12月7日 中間整理：これまで会読した箇所の内容整理と在家の特色 発表者：船山 徹</p>
<p><b>中国在家の教理と經典</b> 班長 船山 徹 研究期間 2016 年 4 月－2020 年 3 月（3 年度目） 研究実施状況</p>	<p><b>龍門北朝窟の造像と造像記</b> 班長 稲本泰生 研究期間 2017 年 4 月－2020 年 3 月（2 年度目） 研究実施状況</p>
<p>中国の南朝仏教における在家の活動を具体的に知るため，今年は『廣弘明集』卷 28 悔罪篇に関して前年度に扱えなかった箇所と卷 22 法義篇の会読を集中的に行った。具体的には，「沙羅齋懺文」，「無礙會捨身懺文」，「因縁無性論序」，「性法自然論」，「因縁無性論」の会読を終えた。今後，引き続き卷 22 の「齊三部一切經願文」，「周經藏願文」，およびそれ以下の会読を進めする予定である。</p>	<p>龍門古陽洞の造像記を，原則として『北京図書館蔵 龍門石窟造像題記拓本全編』（広西師範大学出版社）の掲載順に取り上げ，対応する造像とともに検討を進めた。有年紀分はすでに終了し，1 月からは古陽洞の造像・造像記を，壁面のブロック単位で全面的に再検討する作業を進めている。</p>
<p>研究班員 所内：船山徹，稲本泰生，稲葉穰，クリスティアン・ウィッテルン，古勝隆一，中西竜也 学内：趙ウニル（大学院文学研究科），中村慎之介（大学院文学研究科）</p>	<p>研究班員 所内：岡村秀典，安岡孝一，向井佑介 学内：内記理（文化財総合研究センター），檜山智美（白眉センター），折山桂子（大学院文学研究科）</p>

学外：佐藤智水（龍谷大学）、石松日奈子（清泉女子大学）、外山潔（泉屋博古館）、山名伸生（京都精華大学）、斎藤龍一（大阪市立美術館）、濱田瑞美（横浜美術大学）、大西磨希子（仏教大学）、田林啓（白鶴美術館）、上枝いづみ（金沢大学）、高橋早紀子（愛知学院大学）、黄盼（京都府立大学）、苔名悠（大阪大谷大学）、北村一仁（龍谷大学）

## 研究実施内容

2018 年

4 月10日 黄元徳造像記など三件

発表者：田林 啓

4 月24日 曹連造像記など四件発表者：田林 啓

5 月 8 日 李□妃造像記など三件

発表者：苔名 悠

5 月22日 劉□兒造像記など四件

発表者：苔名 悠

6 月12日 法貴造像記など四件

発表者：大西磨希子

6 月26日 惠感造像記など四件

発表者：大西磨希子

7 月10日 為七世父母造像記など六件

発表者：稲本泰生

7 月24日 比丘知因造像記など五件

発表者：稲本泰生

10月09日 鄭胤興造像記など六件

発表者：稲本泰生

10月23日 陵江將軍段桃樹造像記など四件

発表者：稲本泰生

11月13日 平東將軍蘇方成妻造像記など五件

発表者：稲本泰生

龍門の造像銘に見られる若干の將軍号・官職等について発表者：北村一仁

11月27日 張婆樂婆造像記など九件

発表者：折山桂子

12月11日 王非賤造像記など六件

発表者：折山桂子

2019 年

1 月 8 日 古陽洞北壁上層の再検討 第一回

発表者：稲本泰生

2 月12日 古陽洞北壁上層の再検討 第二回

発表者：稲本泰生

3 月12日 シャカの入滅年について：シャカムニとアショーカ王とカニシュカ王に関する歴史情報の相関分析

発表者：外村 中

(ヴェルツブルク大学)

## 前近代ユーラシア東方における戦争と外交

班長 岩井茂樹・古松崇志

研究期間 2018 年 4 月～2021 年 3 月（1 年度目）

## 研究実施状況

研究テーマの「前近代ユーラシア東方の戦争と外交」について具体的に考察するための題材として、『三朝北盟会編』の会談に着手した。まず初回の研究会（4 月 10 日）では、この書の編纂・流伝・版本について検討し、従来の漢籍目録・解題に著録されている鈔本・刊本の情報を整理した。さしあたりは入手しやすい、清末光緒年間の許涵度刊本を底本にして会談をおこなうことにした。4 月 24 日の第二回研究会より、14 回にわたって『三朝北盟会編』の会談をおこない、担当者を決めてテキストの校訂・訳注作業を進め、巻一から巻四の途中までを読み終えた。なお、10 月に班長の古松が北京に出張し、『中華再造善本』所収の中国国家図書館蔵明鈔本の画像データを入手した。不完全な本ではあるものの、従来知られる刊本に比べてすぐれた内容を持つ版本であると判断し、以後の研究会では底本を明鈔本に変更して会談を進めることにした。

## 研究班員

所内：岩井茂樹、古松崇志、矢木毅、村上衛、高井たかね

学外：井黒忍（大谷大学）、伊藤一馬（大阪大学）、岩本真利絵（大谷大学）、遠藤総史（大阪大学）、小野達哉（同志社大学）、加藤雄三（専修大学）、木村可奈子（名古屋大学）、小林隆道（神戸女子大学）、承志（追手門学院大学）、城地孝（同志社大学）、武田和哉（大谷大学）、橋本雄（北海道大学）、濱野亮介（大谷大学）、藤原崇人（龍谷大学）、船田善之（広島大学）、水越知（関西学院

大学), 毛利英介 (関西大学), 齊藤茂雄 (大阪大学), 藤本猛 (清泉女子大学), 古畑徹 (金沢大学), 渡辺健哉 (大阪市立大学)

発表者: 高井たかね

発表者: 城地 孝

2月19日 会読:『三朝北盟会編』巻四

発表者: 城地 孝

#### 研究実施内容

2018 年

4月10日 『三朝北盟会編』について

発表者: 古松崇志

4月24日 会読:『三朝北盟会編』巻一

発表者: 古松崇志

5月8日 会読:『三朝北盟会編』巻一

発表者: 古松崇志

発表者: 井黒 忍

5月22日 会読:『三朝北盟会編』巻一

発表者: 井黒 忍

発表者: 毛利英介

6月5日 会読:『三朝北盟会編』巻一

発表者: 毛利英介

会読:『三朝北盟会編』巻二

発表者: 伊藤一馬

6月19日 会読:『三朝北盟会編』巻二

発表者: 伊藤一馬

7月3日 会読:『三朝北盟会編』巻二

発表者: 藤原崇人

7月10日 会読:『三朝北盟会編』巻二

発表者: 藤原崇人 発表者: 矢木 毅

10月30日 会読:『三朝北盟会編』巻二

発表者: 矢木 毅

会読:『三朝北盟会編』巻三

発表者: 井黒 忍

11月13日 会読:『三朝北盟会編』巻三

発表者: 井黒 忍

11月27日 会読:『三朝北盟会編』巻三

発表者: 井黒 忍

発表者: 古松崇志

12月11日 会読:『三朝北盟会編』巻三

発表者: 古松崇志

12月25日 会読:『三朝北盟会編』巻三

発表者: 古松崇志

2019 年

1月15日 会読:『三朝北盟会編』巻四

#### 3世紀東アジアの研究

班長 森下章司

研究期間 2018年4月-2021年3月(1年度目)

#### 研究実施状況

1年目にあたる本年度は、基礎文献である『三国志』の資料的性格と成立過程、その世界観などについて確認したのち、『魏志』烏丸鮮卑東夷伝の回読をおこなった。隔週で研究会を開催し、計17回を実施した。その前半はおもに『魏志』烏丸鮮卑伝をその他の文献史料の記述および関連する考古資料と対比しつつ読み進め、烏丸と鮮卑の習俗・文化・分布・歴史の変遷について、匈奴などと比較しながら議論した。後半は、東夷伝のうち夫余と高句麗をとりあげ、同様に文献史料と図像資料とをつきあわせて検討をおこなった。また、建築史学と東北アジア考古学の研究者を招き、ゲストスピーカーとして講演してもらい、本研究班の班員との間で議論と意見交換をおこなった。来年度は東夷伝のうち韓と倭について検討し、さらに班員によるテーマごとの報告も順次おこなっていく予定である。

#### 研究班員

所内: 向井佑介, 岡村秀典, 稲本泰生, 宮宅潔, 古勝隆一, 古松崇志, 藤井律之, 高井たかね, 目黒杏子, 大谷育恵

学内: 吉井秀夫(文学研究科), 下垣仁志(文学研究科), 金宇大(白眉センター), 馬淵一輝(文学研究科)

学外: 長友朋子(立命館大学), 井上直樹(京都府立大学), 諫早直人(京都府立大学), 山本亮(泉屋博古館)

#### 研究実施内容

2018 年

4月13日 『魏志』烏丸鮮卑東夷伝と『魏略』『魏書』(1)

発表者: 森下章司(大手前大学)

4月27日 『魏志』烏丸鮮卑東夷伝と『魏略』『魏書』(2)

発表者：森下章司（大手前大学）		籠谷 直人
5月11日 『魏志』烏丸鮮卑東夷伝序	イギリス・アイルランド近現代史	小関 隆
発表者：森下章司（大手前大学）		技術・自然・（ポスト）現代性の思想 — 哲学的探求
5月25日 『魏志』烏丸伝	発表者：向井佑介	佐藤 淳二
6月8日 『魏志』烏丸伝・鮮卑伝	近代天皇制の文化史的研究	高木 博志
発表者：向井佑介		人種・エスニシティ論
6月22日 魏志東夷伝にみえる住まいの描写	南アジアの宗教と社会／近代における暴力、セクシュアリティ、宗教	田中 雅一
発表者：浅川滋男 （公立鳥取環境大学）		ヴェーダ文献の生成と伝承の研究
7月13日 『魏志』鮮卑伝	発表者：向井佑介	藤井 正人
7月27日 肅慎の楛矢に関する基礎的研究	西アフリカと南アジアの宗教、憑依、間身体性	石井 美保
発表者：馬淵一輝（文学研究科）		近代トランスコーカサス（特にグルジア）における匪賊
9月26日 『魏志』夫餘伝（1）	発表者：大谷育恵	伊藤 順二
10月12日 『魏志』夫餘伝（2）	発表者：大谷育恵	近世ヨーロッパの歴史叙述と政治思想
10月26日 挹婁の考古学	発表者：大貫静夫 （東京大学名誉教授）	王寺 賢太
発表者：大貫静夫 （東京大学名誉教授）		東アジアにおける生命科学と「自然」
11月16日 『魏志』高句麗伝（1）	近代日本美術と西洋	瀬戸口明久
発表者：大谷育恵		高階絵里加
11月30日 『魏志』高句麗伝（2）	精神分析的知の思想史的位置づけ	立木 康介
発表者：大谷育恵		近現代日本の社会運動・社会思想
12月14日 国際研究ミーティング「東夷諸族の形成過程をめぐる諸問題」 日韓の食事様式と調理方法	農業史の再構築	福家 崇洋
発表者：長友朋子 （立命館大学）		藤原 辰史
発表者：大谷育恵		フランス象徴主義と文学的モデルニテ
2019年	島崎藤村その他の近代文学者の作品研究 — リアリズム、メディア、帝国	森本 淳生
1月11日 『魏志』東沃沮伝	皇室の土地所有に関する歴史的研究	HOLCA, Irina
発表者：馬淵一輝（文学研究科）		池田さなえ
1月25日 国際研究ミーティング「東夷諸族の形成過程をめぐる諸問題」 魏志東夷伝と天下観	無声映画史	小川佐和子
発表者：東 潮 （徳島大学名誉教授）		近代日本民俗誌システムの研究
2月8日 『魏志』濊伝	近代西洋医学発展史研究および身体論	菊地 暁
発表者：馬淵一輝（文学研究科）		田中祐理子
個人研究		在米日・墨移民の相互関係に関する歴史的研究 — 環太平洋の視点から
人文学研究部		徳永 悠
近世社会解体過程の研究	岩城 卓二	啓蒙と文学 — アドルノ美学における「人間性」の位置づけ —
近代西洋音楽史	岡田 暁生	藤井 俊之
戦前期日本の工業化と華僑ネットワーク	WITTERN, Christian	

## 人 文 学 報

古代中国の考古学研究	岡村 秀典	セミナー室 1
中国伝統科学の思想史的考察	武田 時昌	5月10日（木）「68年から人間の終わりを考える：人 でなし、あるいは IPS やら AI やら」 講演者：佐藤 淳二
インド・中国における仏教の学術と実践	船山 徹	「1968 年後の共産党」
高麗官僚制度研究	矢木 毅	講演者：小泉 義之
文字コード理論	安岡 孝一	(立命館大学先端研教授)
中国注釈学史研究	古勝 隆一	
中国イスラームの研究	中西 竜也	5月17日（木）「68 年 5 月と精神医療制度改革のうねり」 講演者：上尾 真道
中国中世近世の文学理論	永田 知之	(人文科学研究所研究員)
10～13 世紀ユーラシア東方における王朝間関係の研究	古松 崇志	「精神分析の 68 年 5 月—「ラカン派」の内と外」
秦漢制度史の研究	宮宅 潔	講演者：立木 康介
歴史考古学的方法にもとづく中国文化研究	向井 佑介	5月24日（木）「ドゥルーズ＝ガタリと 68 年 5 月— 佐藤・廣瀬著『三つの革命』をめぐる」 講演者：佐藤嘉幸
近代華南沿海の社会経済制度の変容	村上 衛	(筑波大学准教授)
東方学における対象の論理学的研究	白須 裕之	
南宋期道学の経書解釈	福谷 彬	廣瀬 純
中国家具とその使用に関する研究	高井たかね	(龍谷大学経営学部教授)
中国古代中世の官制史	藤井 律之	
東西資料によるモンゴル時代の文化交流と諸制度の研究	宮 紀子	5月31日（木）「〈学知ってなんだ〉：エビステモロジーと 68 年」
文字定義情報に基づく文書表現系に関する研究	守岡 知彦	講演者：田中祐理子
		「京大人文研のアルチュセール— 68 年前後」 講演者：王寺 賢太
		6月9日（土）「イギリスのポスト 68 年」
		講演者：布施 哲
		(名古屋大学文学部准教授)
		「68 年のドンキホーテ」
		講演者：市田 良彦 (神戸大学国際文化学研究科教授)
		ゲスト：結 秀美 (文芸批評家)

## 事業概況

### ・ Kyoto Lectures 2018

2018 年 4 月 17 日

於 フランス国立極東学院・京都支部

War without Blood? The Literary Uses of a Taboo Fluid in the Heike monogatari

講演者：Vyjayanthi Ratnam Selinger  
(ボウディン大学准教授)

・「人種神話を解体する— 可視性と不可視性のはざままで」出版記念 連続セミナー@人文研 (人文研アカデミー)

・連続セミナー 「〈68 年 5 月〉と私たち」— 68 年 5 月と現在、政治と思想を往還する (人文研アカデミー)

2018 年 5 月 10 日, 5 月 17 日, 5 月 24 日, 5 月 31 日, 6 月 9 日

於 京都大学人文科学研究所本館 1F

2018 年 5 月 19 日, 6 月 2 日, 6 月 16 日

於 京都大学人文科学研究所 本館 1 階 101

5月19日（土）〈第 1 回 被差別部落の表象〉

差異と差別の (不) 可視化をめぐる 講演者：竹沢 泰子  
見えない差異と映像表現の問題

講演者：斎藤 綾子  
 (明治学院大学文学部教授)

6月2日(土) 〈第2回 「創られた人種」の可視化〉  
 アイヌの〈血〉が意味するもの  
 講演者：関口 由彦  
 (成城大学民俗学研究所研究員)  
 「国民の物語」再考 ― 部落問題認識における本質論を超えて ―  
 講演者：吉村 智博  
 (国際日本文化研究センター  
 客員准教授)

6月16日(土) 〈第3回 新人種主義の現在・座談会〉  
 「ジブシー」可視化と新人種主義  
 講演者：岩谷 彩子  
 (京都大学人間・  
 環境学研究科准教授)

座談会  
 参加者：岩谷 彩子, 関口 由彦,  
 吉村 智博, 斎藤 綾子,  
 竹沢泰子ほか

・Kyoto Lectures 2018

2018年5月29日  
 於 フランス国立極東学院・京都支部  
 Christian Sorcerers Crucified: Reconsidering the  
 Keihan Kirishitan Incident of 1827-29  
 講演者：Mark Teeuwen (オスロ大学教授)

・Kyoto Lectures 2018

2018年6月4日  
 於 フランス国立極東学院・京都支部  
 Dead Goddesses and Living Narratives: Variant  
 Accounts in Early Japanese Mythology  
 講演者：David Lurie (コロンビア大学准教授)

・アンナ・ザイデル記念講演

2018年6月11日  
 於 東アジア人文情報学研究センター2階大会議  
 室

Traces of Buddhism, Daoism, and Popular Religion  
 in East Asian Religious Icons

講演者：James Robson (ハーヴァード大学教授)

・レクチャーコンサート+日本18世紀学会共通  
 題セッション

2018年6月23日, 6月24日

I. レクチャーコンサート「20世紀が変奏した18  
 世紀」(人文研アカデミー)

2018年6月23日

於 京都大学人文科学研究所4F大会議室

ピアノ奏者：小坂 圭太

(お茶の水女子大学基幹研究員教授)

講師：岡田 暁生

II. 日本18世紀学会第40大会共通論題セッション  
 「啓蒙のリミット ― 神話・文学・政治思想のは  
 ざままで」

2018年6月24日

於 京都大学人文科学研究所本館共通I講義室

「啓蒙のリミット ― 神話・文学・政治思想のはざま  
 で」 佐藤 淳二

「二つの18世紀 ― アドルノとハーバーマスの『現  
 代』をめぐる」 藤原 俊之

「中国の18世紀 ― 二つの視点から」 井波 陵一

「フランス革命における後見人の問題 ― 誰が誰の後  
 見人になるべきか？」 上田 和彦

・臺灣漢學講座 ― Taiwan Lextures on Chinese  
 Studies

2018年6月26日

於 東アジア人文情報学研究センター2階

大会議室

講演者：Ping-tzu Chu

・特別講演会『Essay on History of Cultic Images  
 in China: The Domestic Statuary of Hunan』

2018年6月26日

於 人文科学研究所本館1階セミナー室1

講演者：Alain Arrault (フランス極東学院)



・日仏東洋学会ミニ・シンポジウム〈クロードルと  
極東〉

2018年6月30日

於 京都大学人文科学研究所本館1階

セミナー室1

〈Paul Claudel et l'Indochine〉ポール・クロードル  
とインドシナ

講演者：Michel WASSERMAN  
(立命館大学国際関係学部教授)

講演通訳：門田真知子  
(CRI2i 所属研究員)

コメンテーター：牧野 元紀  
(昭和女子大学准教授)

開会挨拶：立木 康介

閉会挨拶：中谷 英明

(日仏東洋学会会長)

・人文研アカデミー夏期公開講座「名作再読—い  
ま読んだらこんなに面白い12」

2018年7月14日

於 京都大学人文科学研究所本館1階

共通1講義室

「鷺の巣」からアガサ・クリスティーを眺めると

宮 紀子

明暦日本の物産—木綿に注目して—大文字屋治右  
衛門(松江重頼)編「毛吹草」を読む 籠谷 直人  
探検大学のパイオニアたち—長廣敏雄「雲岡日記」  
から 岡村 秀典

・人文研アカデミー2018「日本・ルーマニア・ド  
イツ・中国・ソ連における社会主義と文化交流の  
ネットワーク：文学、舞台演劇、映画」

2018年7月21日

於 京都大学人文科学研究所本館1階

セミナー室1

報告：田村 容子(金城学院大学文学部教授),

ヤコブ・ヴィヴィアナ  
(高等学術研究センター特別研究員),

和田 崇(三重大学教育学部准教授)

コメント：石川 禎浩, 尹 芷汐  
(名古屋大学大学院

人文学研究科博士研究員)

司会：バシュカ・ロマン

(神田外語大学日本研究所専任講師),

ホルカ・イリナ

・Kyoto Lectures 2018

2018年7月23日

於 フランス国立極東学院・京都支部

Anomalies in Aesop: Extraneous Episodes in the  
Japanese Script Edition of Isopo monogatari

講演者：Lawrence E. Marceau  
(オークランド大学)

・高校生のための夏期セミナー—人文学研究への  
招待—「生きる」を考える

2018年8月18日

於 京都大学人文科学研究所本館1階

セミナー室1

「視覚メディアとしての絵画—描かれた生き物たち  
—」

高階絵里加

「ロボットは何を愛したの?—哲学で考えてみよう  
—」

田中祐理子

・Kyoto Lectures 2018

2018年9月14日

於 フランス国立極東学院・京都支部

Heresy and Heresiology in Shingon Buddhism:  
Reading the Catalogues of "Perverse Texts"

講演者：Gaétan Rappo (名古屋大学)

・人文研アカデミー2018連続セミナー「技艺の伝  
統と学問：中国ユネスコ無形文化遺産」

2018年9月14日, 9月21日, 9月28日, 10月5  
日

於 京都大学人文科学研究所本館1階

セミナー室1

9月14日(金) 珠算：ソロバン暗算術(総論：世界  
遺産からみた伝統科学文化)

武田 時昌

9月21日(金) 鍼灸：脈診・腹診・ハラノムシ(日  
中鍼灸医術比較論)

長野 仁 (森ノ宮医療大学教授)  
9月28日 (金) 書道: 秦漢の古文字を書いてみる  
(出土簡帛研究最前線)

名和 敏光 (山梨県立大学准教授)  
10月5日 (金) 古琴: 知音の調べ, 琴学の理論 (伝統音楽文化論&実演) 麥 文彪

・シンポジウム **New Visibilities and Invisibilities: convergent and divergent modes of racism and racialization Part 1** (新・可視性と不可視性のはざま part 1)

2018年9月29日

於 京都大学人文科学研究所本館1階

セミナー室1

講師: Faye V. Harrison

(イリノイ大学教授), John G. Russell

(岐阜大学教授), Stephen A. Small

(カリフォルニア州立大学バークレー校)

コメンテーター: 徳永 悠

司会: 竹沢 泰子

・シンポジウム 古代インドの哲学と学問 — 始まりと展開 —

2018年10月7日, 10月8日

於 芝蘭会館「別館」研修室2

最初のウパニシャッドはどのように生まれたのか

藤井 正人

ヴェーダ祭式とパーニニ文法学 尾園 絢一

神の名の意味を知ること — 神性アグニ (agni) の分析に見るヤースカの語源学と神学

川村 悠人・堂山英次郎

インド密教におけるホーマ儀礼について

菊谷 竜太

後期アドヴァイタ学派における bhakti 論

真鍋 智裕

14 または 18 の学問 (vidyasthanā) について

吉水 清孝

・Kyoto Lectures 2018

2018年10月11日

於 フランス国立極東学院・京都支部

Boxes of Fleas and Butterfly Folding Fans: Collecting Insects in Colonial Taiwan

講師: Kerstin Pannhorst (フンボルト博物館)

・シンポジウム アジアとヨーロッパの被差別民  
〈新・可視性と不可視性のはざま part 2〉

2018年10月12日

於 京都大学東京オフィス

河原者・ユダヤ人・「ジプシー」— 中世の「特権神話」—

竹沢 泰子

部族民と不可触民 — インドにおける差別の諸形態

— 田辺 明生 (東京大学大学院総合文化研究科)

・人文研アカデミー 2018「石牟礼道子さんの世界にふれよう」

2018年10月19日, 10月20日

第1部 10月19日 (金) “石牟礼道子” を撮る  
〜魂の言葉に向き合う〜

於 熊本市立図書館

講師: 吉崎健 (NHK 熊本ディレクター),  
藤原辰史

第2部 10月20日 (土) 石牟礼さんと食べ物をめぐるキッチントーク

於 熊本市慶誠高校

講師: 藤原辰史

第3部 10月20日 (土) 石牟礼道子作品のビブリオ・トーク

於 熊本市立図書館

コーディネーター: 藤原辰史

・人文研アカデミー 2018・公開シンポジウム企画  
「映画『祇園祭』と京都」

2018年10月27日, 10月28日

第1日目 10月27日 (土) 「映画『祇園祭』上映会」

於 京都大学時計台国際交流ホール (Ⅱ) (Ⅲ)

主催者挨拶及び上映作品の背景説明

谷川 健司 (早稲田大学政治経済学術院客員教授)

映画『祇園祭』(168分) の復元版 35ミリフィルムでの上映会

第2日目 10月28日 (日) 研究報告会「京都史

の中における『祇園祭』

於 京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室  
「中村錦之助の『祇園祭』製作前夜 — 五社協定と俳優クラブ組合を中心に —」

木村 智也（明治学院大学非常勤講師）  
「『祇園祭』論争に見る脚本家と監督の権限」  
板倉 史明（神戸大学大学院  
国際文化研究科准教授）

「映画『祇園祭』の復元と保存」

太田米男（大阪芸術大学芸術学部教授）  
「映画『祇園祭』と歴史学研究」

京樂真帆子（滋賀県立大学人間文化学部教授）  
「近現代史のなかの映画『祇園祭』」 高木 博志  
パネルディスカッション

パネラー：木村 智也, 板倉 史明,  
太田 米男, 京樂 真帆子, 高木 博志他  
司会：谷川 健司  
ディスカッサント：木下 千花  
（京都大学大学院人間・  
環境学研究科准教授）

・NHK ドキュメンタリー制作者が見た“日系アメリカ人 栄光と苦難の 150 年”

2018 年 10 月 31 日

於 京都大学人文科学研究所本館 101  
講師：小山 靖史（NHK エンタープライズ  
エグゼクティブプロデューサー）

・Kyoto Lectures 2018

2018 年 11 月 6 日

於 フランス国立極東学院・京都支部  
Monkey Business: Differing Approaches to the  
“Reconstruction” of the Bugaku Piece  
講演者：Andrea Giolai  
（国際日本文化研究センター）

・人文研アカデミー 2018「博物館と文化財の危機  
— その商品化、観光化を考える」

2018 年 11 月 17 日

於 京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室  
「文化財住宅を博物館にする」 小泉 和子

（登録文化財昭和のくらし博物館館長・  
重要文化財熊谷家住宅館長）

「対話する史料館」 岩城 卓二  
「博物館の可能性」

久留島浩（国立歴史民俗博物館館長）  
「文化財と政治」 高木 博志  
司会：原田 敬一（佛教大学歴史学部教授）

・北白川 EFEO サロン 2018-2019「日本における  
宗教と民衆への教え」

2018 年 11 月 30 日

於 フランス極東学院京都支部  
日本文化における〈地獄絵〉の機能と空間 — 唱  
導・後戸・境界を中心に —  
講師：鈴木 堅弘（京都精華大学特別研究員）

・人文研アカデミー 2018「マルグリッド・デュラス  
声の〈幻前〉— 小説・戯曲・映画」

2018 年 12 月 1 日

於 アンスティチュ・フランセ関西 — 京都  
稲畑ホール

I. 虚空と沈黙

「夜明けの光」のセレナーデを歌うのは誰か？ —  
『かくも長き不在』における〈声〉の幻前

森本 淳生  
声なき身体、静かなる犯罪 — 『イギリスの愛人』に  
寄せて 立木 康介

II. 映画と〈声〉

デュラス、声を巡るエクリチュールの試み — 声の  
現前と不在の間で

関 未玲（愛知大学経営学部准教授）  
声とまぼろしの風景 — デュラス、足立、ストロー  
ブ＝ユイレ、ボレにおける移動撮影

橋本 知子（京都女子大学非常勤講師）

III. 新たな視角へ向けて

どのように呼びかける（呼ぶ）のか — マルグリッ  
ト・デュラスにおける名前の力

澤田 直（立教大学文学部教授）  
声に対するある種の違和感？

ジル・フィリップ（ローザンヌ大学文学部教授）

・国際シンポジウム **Redrawing and Straddling Borders: Chinese Muslims in Transnational Fields and Multilingual Literatures**

2018 年 12 月 1 日, 12 月 2 日

於 京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室

12 月 1 日 Redrawing Boundaries between “Us” and “Others” in Response to Changing Historical Circumstances

Family, Umma, and Nation: Multi-layered and Dynamic Identities of Chinese Muslims 中西 達也

Boundaries of Hui: About Wartime Ethnic “Identity”

趙 元昊 (中国社会科学院)

Way of Heaven, Way of Man: Boundaries of the Shari’a in Qing and Republican China

Aaron Glasserman (コロンビア大学)

Different Religious Practices and “Others” in Northern Thailand

Suchart Setthamalinee

(パーヤップ大学)

12 月 2 日 Straddling Spatial, Cultural, or Ethnic Boundaries

Transcending Linguistic Boundaries in Late Imperial China: The Case of *Mirsad al-’ibad* Dror Weil (マックス・ブランク

科学史研究所)

Overseas Hui Entrepreneurs and the Globalisation of Qingzhen Ethnic Food: A Case Study of Malaysia

Diana Wong

(マレーシアサインズ大学)

Legacy, Sociability, Moving Borders: An Ethnography of Trade Relationship between Chinese Muslims and Tibetans in Amdo

Marie-Paule Hille

(社会科学高等研究院)

Socio-Cultural Similarities and Differences among Different Muslim Groups in Mainland China: An Approach toward

the Multiculturalism in Muslim Minorities 王 建新 (蘭州大学)

Border-crossing, Belonging and Family networks among Chinese Muslim Diaspora in Northern Thailand

Wang-Kanda Liulan (同志社大学)

At Home in Diaspora: The Chinese Hui Migrants in Malaysia

馬 海龍 (青海民族大学)

・Kyoto Lectures 2018

2018 年 12 月 4 日

於 フランス国立極東学院・京都支部

Pushing Filial Piety: The Otogizōshi Nijūshikō and an Osaka Publisher’s ‘Beneficial Books for Women’

講演者: Keller Kimbrough

(コロラド大学ボルダー校)

・科研「新宗教史像の再構築」公開シンポジウム  
『1968 年と宗教 — 全共闘以後の「革命」のゆくえ —』

2018 年 12 月 15 日

於 京都大学人文科学研究所 4 階大会議室

高橋和己と 1968 年前後 — 未成へ向かう臨死者の眼 — 川村 邦光

1968 年の身体 — 津村喬における気功・太極拳 — 鎌倉祥太郎

田川健三における大学闘争と宗教批判 — 観念と現実のはざま — 村山 由美

神々の爆発 — 1968 年と〈民衆宗教〉観の変遷 — 武田 崇元

柳田国男と戦後民主主義の神学 — 1968 年の視点からの照射 — 桂 秀実

“近代主義を超えて” を超えて — 宗教研究と 1968 年 — 栗田 英彦

司会: 栗田 英彦

・北白川 EFEO サロン 2018-2019「日本における宗教と民衆への教え (16~19 世紀)」

2019 年 1 月 25 日, 2 月 8 日

1 月 25 日 寺院所蔵の幽霊画 — その意味と縁起,

口碑, 図像 —  
於 フランス国立極東学院京都支部  
講師: 堤 邦彦 (京都精華大学教授)  
コメンテーター: フランソワ・ラシオー  
(フランス国立極東学院教授)  
2月8日 失われたキリシタン民衆の声を求めて  
— 島原天草一揆後の排耶書を中心に —  
於 人文科学研究所本館1階セミナー室1

講師: マルタン・ノゲラ・ラモス  
(フランス国立極東学院准教授)

・特別展「カメラが写した80年前の中国 — 京都大学人文科学研究所蔵 華北交通写真展」

2019年2月13日—2019年4月14日

於 京都大学総合博物館

・京大河合文庫目録刊行記念シンポジウム「韓国古文獻の世界」

2019年2月21日

於 京都大学附属図書館3階ライブラリーホール  
「河合文庫概観」 藤本 幸夫 (富山大学名誉教授)  
「河合文庫所蔵筆記雑録の特徴と意義」

鄭 雨峯 (高麗大学校教授)

「朝鮮燕行録の世界 — 河合文庫所蔵, 趙顕命『帰鹿集 (瀋行日記)』に見える中国観察」

夫馬 進 (京都大学名誉教授)

「『金石集帖』の特徴と意義」

沈 慶昊 (高麗大学校教授)

「河合文庫所蔵『遺稿』の著者, 鄭元淳について」

金 文京 (京都大学名誉教授)

「朝鮮後期ソウル名門家の家計経営 — 河合文庫所蔵安東金氏金壽増娚妹分財記」

安 承俊 (韓国学中央研究院古文書研究室長)  
「河合文庫所蔵文集の特徴と意義」

朴 英敏 (高麗大学校研究教授)

「河合文庫所蔵朝鮮時代家屋売買文書から見たソウルの民家」

金 文京 (鶴見大学教授)

・退職記念講演会「私流文化人類学におけるヘウレーカ, 現代思想, 不在のイマゴ」

2019年2月22日

於 京都大学益川ホール

(北部総合教育研究棟1階)

第一部 講演

演者: 田中 雅一

第二部 田中先生を囲んでの座談会

登壇者: 田辺 明夫 (東京大学),

岩谷 彩子 (京都大学), 河西 瑛理子

・国際ワークショップ「Towards the Comprehensive Image Database on Bamiyan Buddhist Site」

2019年3月1日, 3月2日

於 京都大学人文科学研究所一階セミナー室1

Archaeological Missions of Kyoto University and Bamiyan

稲葉 稔

Discovering the Past and Documenting for the

Future: The Story of an International Collaboration

Deborah KLIMBURG-SALTER

(ウィーン大学・ハーバード大学)

Opportunities and Challenges on Economic

Development through Mineral Extraction and

Cultural Property Preservation in Mes Aynak,

Afghanistan Masanori NAGAOKA (UNESCO)

CIRDIS and the Himalayan Archives Vienna: A

Brief Historical and Technical Overview with

Insights into Ongoing Development

Verena WIDORN & Jürgen SCHÖRFLINGER

(CIRDIS, ウィーン大学)

・Kyoto Lectures 2019

2019年3月7日

於 フランス国立極東学院・京都支部

The Japanese Uses of European Renaissance: Regeneration and Reconstruction in the Modern

Period

講演者: Francesco Campagnola (ヘント大学)

・第14回 TOKYO 漢籍 SEMINAR「仙という概念装置 — 仙薬・仙界・仙術」

2019年3月11日

於 一橋大学一橋講堂中会議場

延年長寿のアルケミー

武田 時昌

『幽明録』にみえる洞窟のはなし

土谷 昌明（専修大学経済学部教授）

飛行する仙人

大形 徹（大阪府立大学人文科学系教授）

・特別講演会 **Chivalric Bands (Futuwwa/fityān) in Medieval Islamic Cities**

2019年3月15日

於 人文科学研究本館1階セミナー室1

講演者：Deborah Tor 博士（ノートルダム大学）

・第6回シンポジウム 「古代・中世インドの王権と宗教」

2019年3月23日, 3月24日

於 東京大学文学部法文1号館215教室

王座とブラフマン神

藤井 正人

願望祭とヴェーダ期における社会秩序の維持

天野 恭子

血統, 家系はなぜ重視されたのか：祭官選任儀礼の整備を中心として

西村 直子

贖罪としてのアシュヴァメーダ

手嶋 英貴

ジャイナ教におけるクシャトリヤ観の一事例

河崎 豊

仏教と王権：ブッダの始祖伝説からモンゴル王統史まで

山口 周子

インド密教における灌頂次第とチベットへの伝達

菊谷 竜太

ダルマ文献における司法論題の配置とその変遷

沼田 一郎

（文化連関研究客員部門）受入教員 高木教授

期間 2018年2月20日～2018年8月20日

・李 裕群（社会科学院考古研究所研究員）

北朝石窟寺院研究

（文化生成研究客員部門）受入教員 稲本教授

期間 2018年5月10日～2018年8月10日

・Small, Stephen カリフォルニア大学バークレー

校アフリカ系アメリカン研究学部教授

人種と色のシンボリズムの日米英国際比較

（文化生成研究客員部門）受入教員 竹沢教授

期間 2018年8月22日～2018年11月30日

・全 勇勲 韓国学中央研究院副教授

日韓両国における西洋天文学受容の比較研究

（文化連関研究客員部門）受入教員 武田教授

期間 2018年8月27日～2018年11月26日

・焦 建輝 龍門石窟研究員 副研究館員

日本に所蔵する龍門石窟調査資料の研究

（文化連関研究客員部門）受入教員 岡村教授

期間 2018年11月27日～2019年2月27日

・Duthille Remy Paul Raymond ボルドー・モン

テーニュ大学言語・文明学部英語圏学科准教授

18世紀ブリテンにおける晩餐・飲酒・乾杯

（文化生成研究客員部門）受入教員 王寺准教授

期間 2018年12月1日～2019年3月7日

・Walker, Gavin マギル大学大学院歴史学部准教授

ポスト68年日本の思想史的再検討

（文化連関研究客員部門）受入教員 王寺准教授

期間 2019年3月1日～2019年5月31日

・楊 振紅 南開大学歴史学院教授

出土史料を用いた中国古代法制史の研究

（文化生成研究客員部門）受入教員 宮宅准教授

期間 2019年3月8日～2019年6月7日

## 招へい研究員

・卞 東波（南京大学文学院教授）

唐宋詩日本古注本研究

（文化生成研究客員部門）受入教員 永田准教授

期間 2018年2月1日～2018年4月30日

・Teeuwen, Marcus Jacobus オスロ大学日本学教授

祇園祭の近代と現代

## 招へい外国人学者

・彭 劍 華中師範大学中国近代史研究所副教授

清末制憲問題の研究

受入教員 石川教授

期間 2017年8月30日～2018年8月30日



- ・朱 騰 中国人民大学法学院副教授  
出土文献と秦漢時代の制度史  
受入教員 宮宅准教授  
期間 2017年9月15日～2018年9月14日
- ・楊 孝鴻 上海財経大学人文学院副教授  
漢代画像石（碑）の調査と研究  
受入教員 岡村教授  
期間 2017年9月20日～2018年9月19日
- ・張 瑋琦 国立清華大学准教授  
環境史の視点から見た食文化の継承と活用-食文化遺産の保護体制に関する日台比較について  
受入教員 藤原准教授  
期間 2017年11月1日～2018年6月30日
- ・漆 麟 西南大学美術学院准教授  
日中戦争期のモダニズム美術に関する日中比較研究  
受入教員 石川教授  
期間 2017年11月15日～2019年11月14日
- ・安 東強 中山大学歴史学系副教授  
清朝政府と革命党  
受入教員 石川教授  
期間 2017年12月18日～2018年9月18日
- ・王 煒 山西大学歴史文化学院講師  
中国古建築・史跡写真資料の調査と研究  
受入教員 向井准教授  
期間 2018年1月15日～2018年7月15日
- ・JACQUET, BENOIT フランス国立極東学院准教授  
建築文化からみたアジアのフロンティアの研究  
受入教員 稲葉教授  
期間 2018年7月17日～2019年6月30日
- ・宋 丹 湖南大学外国語与国際教育学院日語系助理教授  
日本における『紅樓夢』の翻訳と受容に関する研究  
受入教員 永田准教授  
期間 2018年7月25日～2019年6月30日
- ・VERDON, Noemie ナーランダー大学講師  
6-11世紀カーピシー＝ガンダーラ地方の宗教・学術・政治史の研究  
受入教員 稲葉教授  
期間 2018年8月1日～2019年7月31日
- ・玉野井 麻利子 カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授  
日本帝国時代の「人道主義」の考察—人種概念をめぐって  
受入教員 竹沢教授  
期間 2018年10月1日～2019年3月30日
- ・秦 翠翠 河南理工大学外国語学部講師  
京都における「洛陽」文化の受容  
受入教員 岡村教授  
期間 2018年10月22日～2019年10月21日
- ・王 剛 西南大学歴史文化学院講師  
日本と清末の軍事改革  
受入教員 石川教授  
期間 2018年11月28日～2019年11月27日
- ・陳 偉 武漢大学歴史学院教授  
中国秦漢時代の簡牘史料よりみた古代帝国の実像  
受入教員 宮宅准教授  
期間 2018年11月28日～2019年12月9日
- ・李 瑄 四川大学中国俗文化研究所教授  
清初渡日黄檗僧の研究  
受入教員 永田准教授  
期間 2019年2月1日～2020年1月31日
- ・李 磊 華東師範大学歴史学系副教授  
秦漢六朝時代の東アジアにおける政治構造と天下概念  
受入教員 宮宅准教授  
期間 2019年2月28日～2020年2月27日

## 外国人共同研究者

- ・DE SOUZA, Lyle Francis ロンドン大学バーベック准講師  
海外日系人の文学とディアスポラ・アイデンティティ  
受入教員 竹沢教授  
期間 2016年9月1日～2019年1月31日（継続）
- ・ERICSON, Kjell David コネチカット大学歴史学部客員研究助手

ミキモトの真珠産業の帝国規模での展開とその資本主義的特質

受入教員 藤原准教授

期間 2017年7月2日～2018年4月30日

・李 媛 北海道大学文学研究科専門研究員)

日本古辞書の翻刻階層モデルの構築に関する人文情報学的研究

受入教員 安岡教授

期間 2017年9月11日～2019年9月10日

・魏 永康 東北師範大学歴史文化学院講師

秦漢時代の民族政策と辺境統治

受入教員 宮宅准教授

期間 2017年9月21日～2019年9月20日(継続)

・劉 家幸 中央研究院中国文哲研究所博士後研究員)

日本の漢文小説における仏教世界：江戸時代から明治初期を中心に

受入教員 永田准教授

期間 2018年1月18日～2019年1月17日

・李 子捷 日本学術振興会外国人特別研究員)

中国5～8世紀の如来蔵思想の根本的再評価

受入教員 船山教授

期間 2018年4月20日～2019年4月19日

・呉 國聖 中央研究院歴史語言研究所博士後研究員

10-13世紀胡語写本と碑文の比較研究

受入教員 中西准教授

期間 2018年9月18日～2018年11月16日

・RUSNEAC OBLEA, Silviu Catalin ハイデルベルク大学 PhD Candidate

帝国日本のコメモレイション：戦死者の現在と過去

受入教員 藤原准教授

期間 2018年10月1日～2019年3月30日

・Frisch, Nicholas イェール大学 PhD Candidate

馮夢龍の出版活動

受入教員 Wittern 教授

期間 2018年12月13日～2018年12月26日

・林 磊 復旦大学歴史学系博士課程

1937～1945年に日本学者が華北で実施した考古

調査と中国学界への影響

受入教員 岡村教授

期間 2019年3月28日～2019年9月28日

## 外国人研究生

・金 英仁

近世京都の庶民生活空間としての門前町-北野天満宮前町と祇園の比較を中心に-

受入教員 岩城准教授

期間 2017年4月1日～2019年3月31日

・呉 虹

6-7世紀日本における仏教美術遺存から見た東アジアの文化交流

受入教員 稲本准教授

期間 2017年10月1日～2018年9月30日

・趙 晔

近代日本における中国労働者-人口移動という視点から

受入教員 村上准教授

期間 2017年10月1日～2020年3月31日

・Caraballo Ricardo

日本の二重国籍者が国籍を放棄するプロセスに関する探究的研究

受入教員 竹沢教授

期間 2017年10月1日～2018年6月31日

・Vargha Attila

超境する日系2世アメリカ人のアイデンティティ

受入教員 竹沢教授

期間 2018年10月1日～平成32年3月31日

・呉 日動

『莊子』郭象注の研究

受入教員 古勝准教授

期間 2018年3月1日～2018年8月31日

・石垣 章子

漢訳仏典として位置付けられた疑偽經典の成立と思想の系譜

受入教員 船山教授

期間 2018年4月1日～2020年3月31日

・龔 麗坤

中世中央アジアの言語研究

受入教員 池田教授

期間 2018 年 10 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

・王 星

6～8 世紀の華北における陶磁器の考古学的研究

受入教員 岡村教授

期間 2018 年 10 月 1 日～2019 年 9 月 30 日

## 出版物

紀要

・人文学報 第 112 号（紀要第 185 冊）

2018 年 6 月 30 日刊

・東洋学文献類目 2016 年度

2018 年 10 月 31 日刊

・東方学報 93 冊（紀要第 186 冊）

2018 年 12 月 20 日刊

・ZINBUN number49

2019 年 3 月刊

## 研究報告その他

・京都大学附属図書館所蔵河合文庫目録 高麗大  
学校民族文化研究院海外韓国学資料センター、  
京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情報  
学研究センター編

2019 年 2 月刊

・人文学宣言 山室信一編

2019 年 2 月刊

・幕末期における大坂・大坂城の軍事的役割と畿  
内・近国藩 岩城卓二（研究代表者）

2019 年 3 月刊

・〈68 年 5 月〉と私たち：「現代思想と政治」の  
系譜学 王寺賢太，立木康介編

2019 年 3 月刊